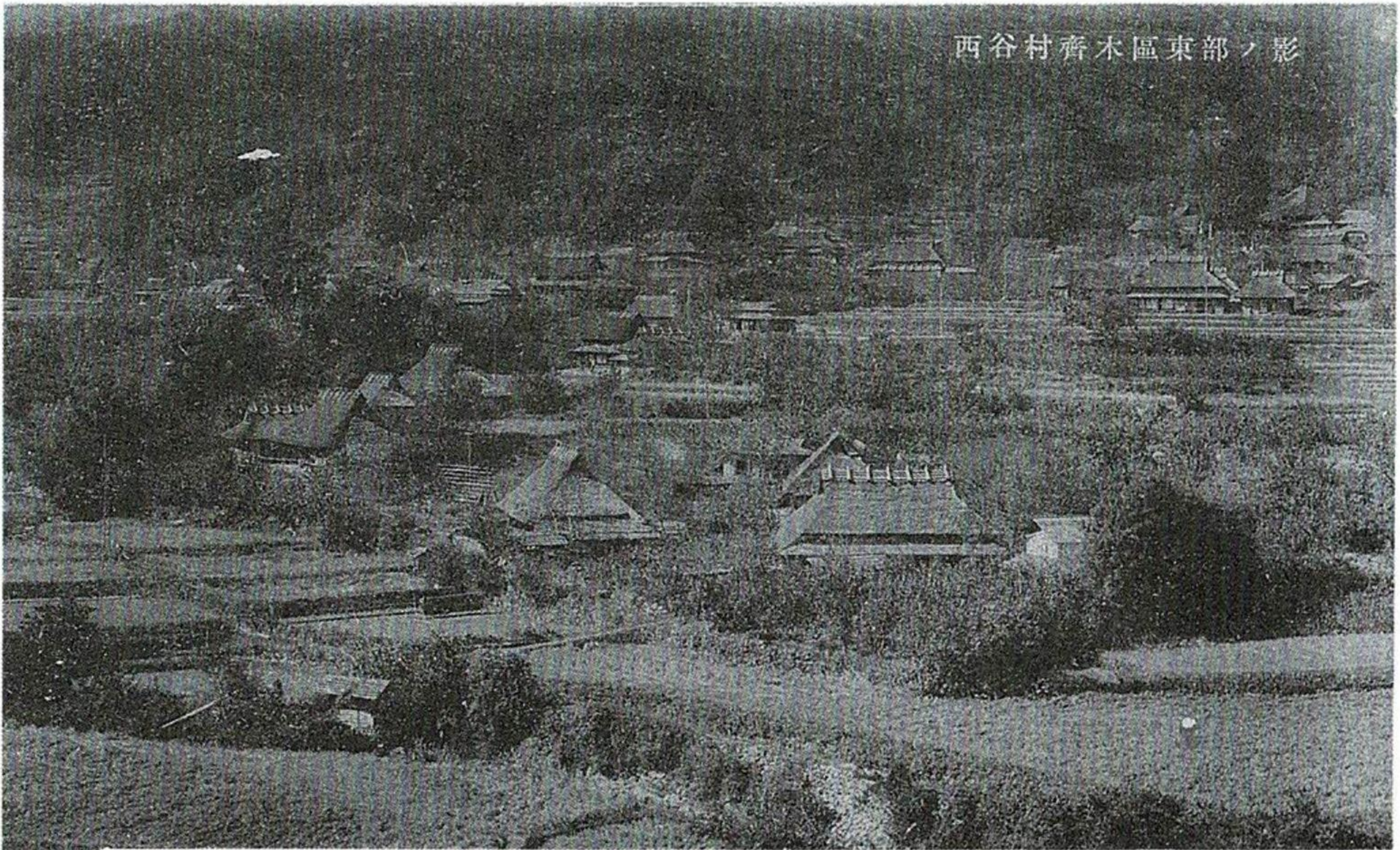


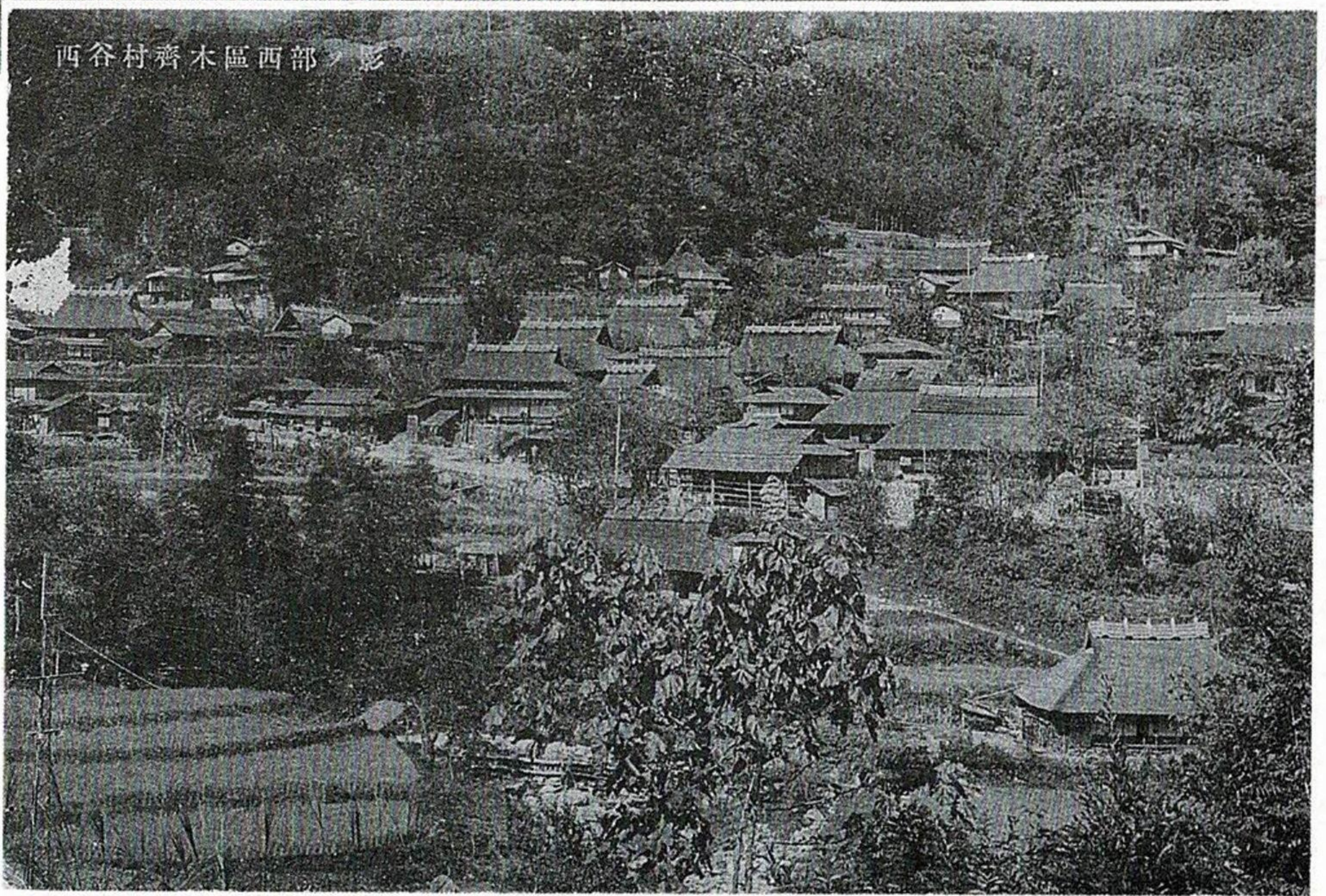
齐 木

# 齊 木

西谷村齊木區東部ノ影



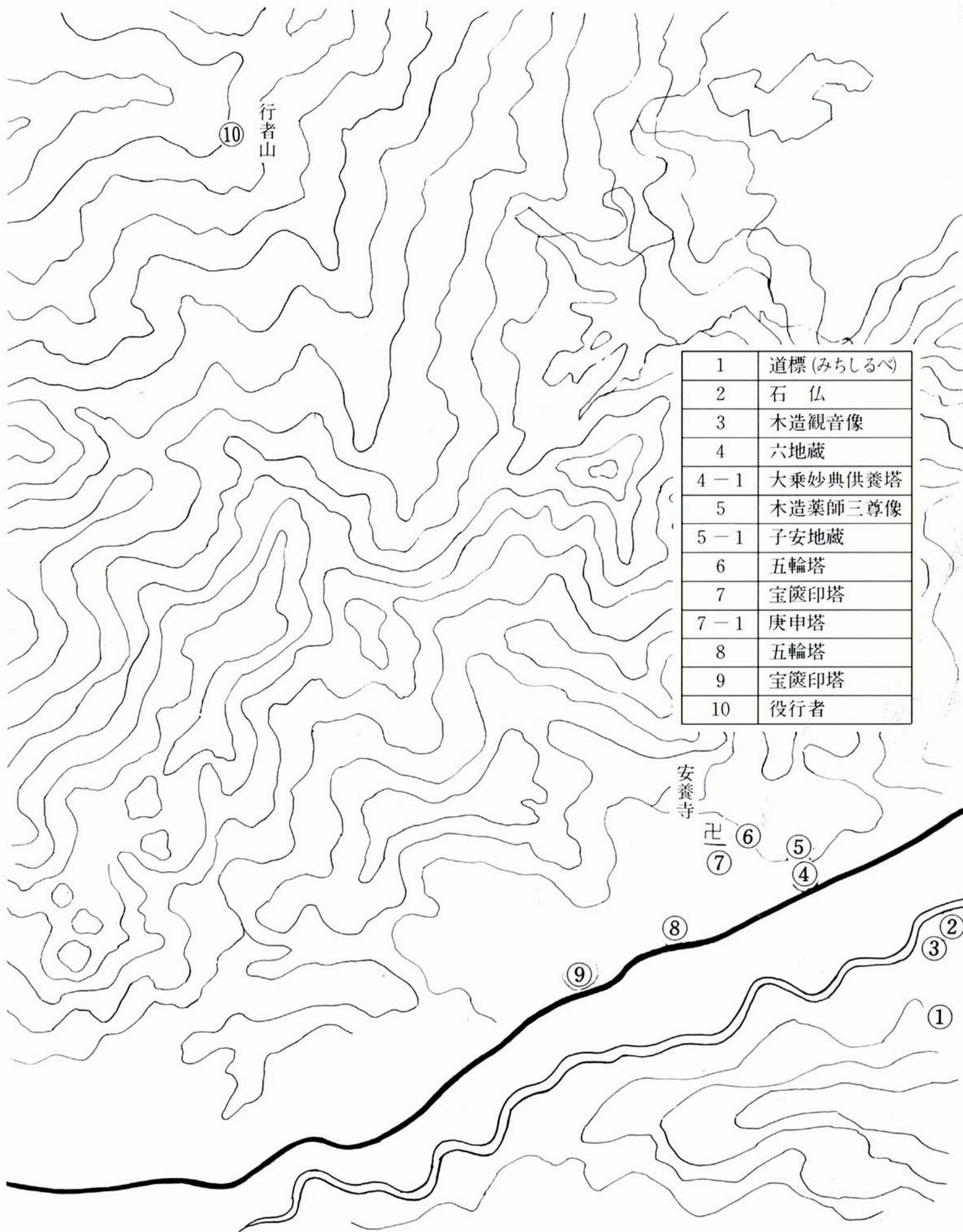
西谷村齊木區西部ノ影



(阪本唯夫氏提供)

# 齐木一区

# 齊木一区 所在位置図



1	道標 (みちしるべ)
2	石 仏
3	木造観音像
4	六地藏
4-1	大乘妙典供養塔
5	木造薬師三尊像
5-1	子安地藏
6	五輪塔
7	宝篋印塔
7-1	庚申塔
8	五輪塔
9	宝篋印塔
10	役行者

## 道標(みちしるべ)



写真 No.1

場所 齊木一区部落の岡田允平氏宅前<sup>のぶへい</sup>

建造時期 宝暦7年丑<sup>うし</sup>2月日 (1757年)

管理者 齊木部落

### 物件にまつわる話

安賀と齊木の境にある。旧道の宮坂を安賀から上った所にある。

右、ありが村<sup>たん</sup>但州、因州、左、さいき村行き、因州、作州<sup>さく</sup>と刻字。

中央上の文字は「従是」(これより)下に「道筋」と刻字されている。

## 石 仏

写真 No.2

場所 齊木(一区)部落の名古城  
観音さんの参道の下

造立時期 文政4年(1821年)(巳<sup>み</sup>年)10  
月立之(これをたてる)

管理者 名古城部落

### 物件にまつわる話

台座に「法界万霊」とある。「法界」とは、すべての世界の意味だが、民俗的には違った意味となり、成仏できない無縁仏の霊で、この世をさ迷い災害を起こすという。この法界霊を鎮めるために祀られたものである。



## 木造観音立像

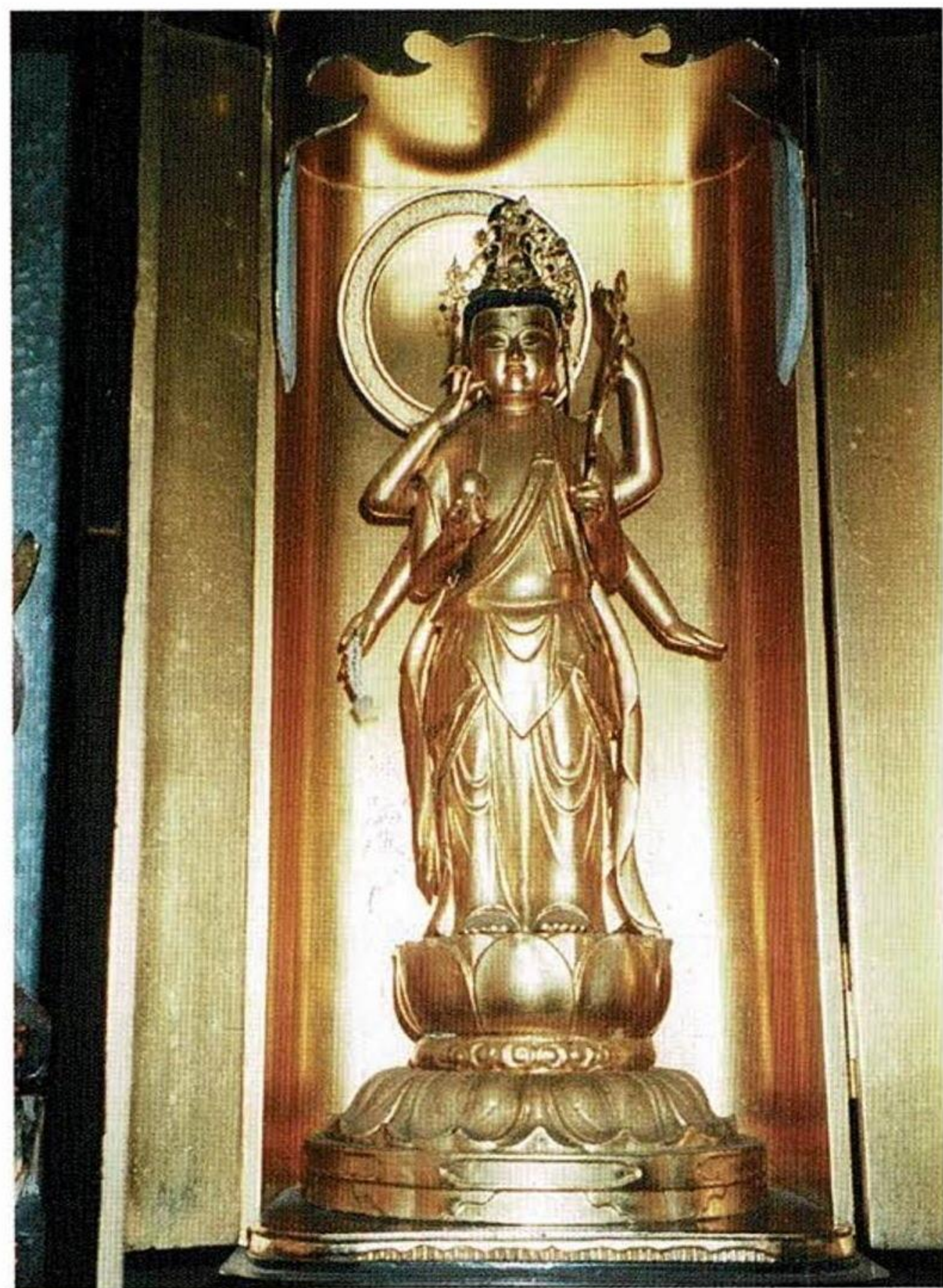


写真 No.3

場所 齊木(一区)部落の名古城<sup>なごき</sup>にある。

建立時期 不明

所有者 安養寺

管理者 安養寺

物件にまつわる話

もとの屋敷は、上にあったが現在地に移されたという。

若松<sup>ばえ</sup>の観音さまともいう。意味は松の木を挿して芽を出した観音さまに由来する。昔は京都からもお参りがあつたといわれ毎年7月10日が祭礼である。石段は昭和16年に寄付をしてもらって完成する。

## 六地蔵

写真 No.4

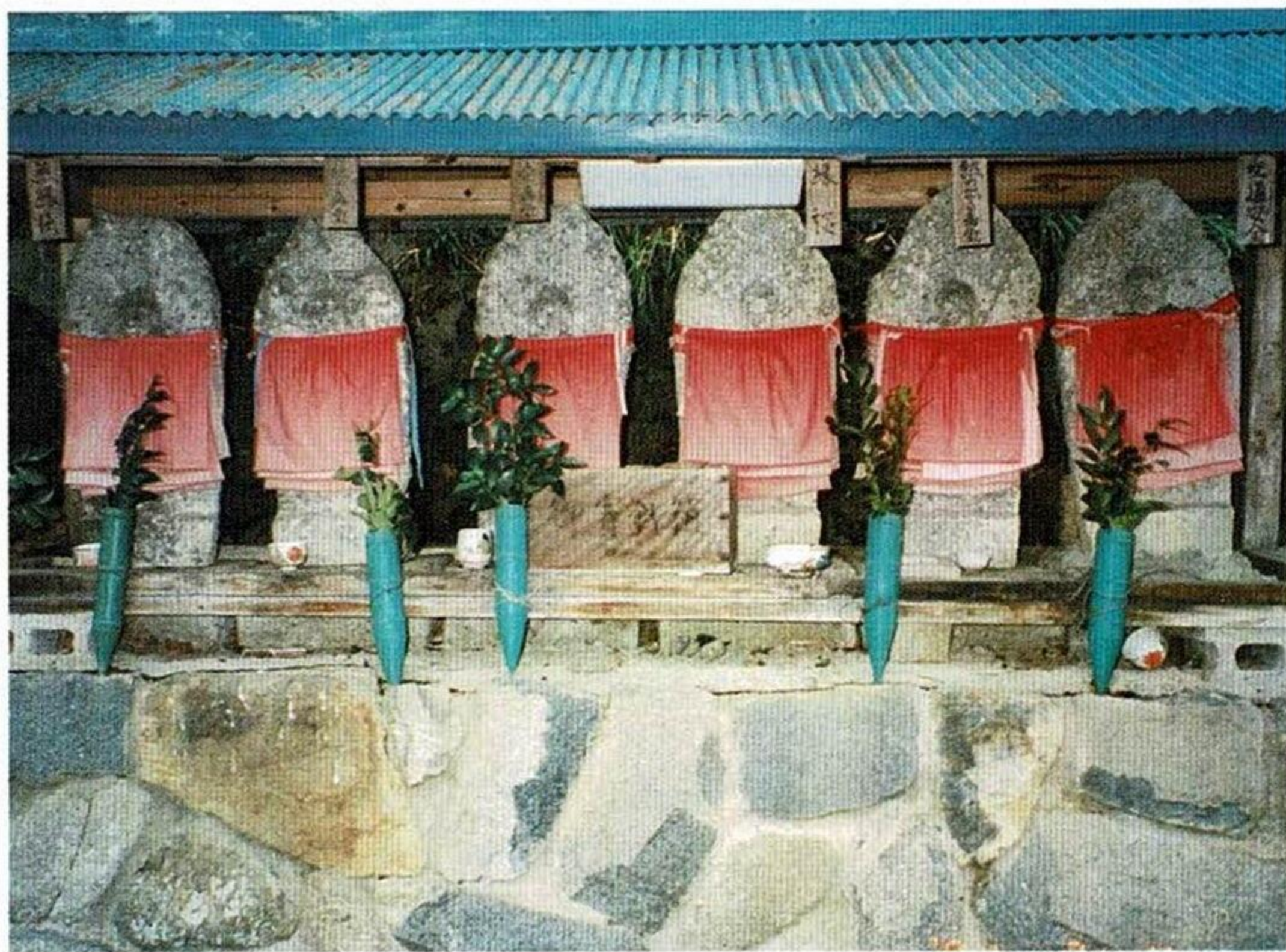
場所 齊木(一区)  
部落、安養寺  
奥の院

造立時期 江戸時代中期  
(1740年頃)

管理者 寺脇隣保

物件にまつわる話

どこの地区にもあるように、村の入口にあって、道中の安全祈願をお願いしたもの。ここが昔の旧道にあたる。



## 大乘妙典供養塔



写真 №.4-1

場所 齊木一区部落の薬師堂参道の下

造立時期 寛政7年(1795年)2月

所有者 安養寺

### 物件にまつわる話

三界万霊…の石造と同じで供養塔。当町でも各所にある。中央頂部に梵字ぼんじのキリーク(阿弥陀如来)、その下に「奉納大乘妙典供養」と刻む。大乘妙典(法華経)を納め、この世の万霊を供養した塔。

## 木造薬師三尊像

写真 №.5

場所 齊木部落の安養寺薬師堂

建立時期 江戸時代

所有者 安養寺

### 物件にまつわる話

像高23cm(中尊) 30cm(脇侍)  
漆箔、寄木造と思われるが構造不明。  
明治時代に修復されたという。芳賀七郎左衛門光節(赤松氏の一族)が勧進したと伝えられる。

なお『東寺執行日記』(阿刀家文書・京都国立博物館蔵)白雲山日光寺に東寺が薬師像を送ったという記事があり、その像が安養寺薬師堂の像であると伝えられる。



## こやす 子安地蔵



写真 №.5-1

場所 齊木(一区)部落の薬師堂境内

建立時期 江戸中期か末期

所有者 安養寺

### 物件にまつわる話

子どもを抱いておられる数少ない地蔵さん。お願いをすれば、子供が授かるというご利益りやくがある。

正しい呼び名は子安こやす地蔵と言ひ、子育て地蔵は誤りである。

## 五輪塔

写真 №.6

場所 齊木部落の安養寺住職家の墓群

造立時期 享保16年(1731年)

所有者 安養寺

管理者 安養寺

### 物件にまつわる話

安養寺住職家の墓群の中にたくさんある五輪の中の代表的なもので、形も正式で最も古いものと思われる。

その他寛延、安永年間、又、文字なきもっと古い墓が立ち並ぶ。





## 宝篋印塔



写真 No.7

場所 齊木部落の安養寺

造立時期 明和4年(1767年)

所有者 安養寺

### 物件にまつわる話

お大師さまのお姿を彫り込んだ基礎部から上の部分は、大阪城の残り石を大阪の石工さんが刻んだもので「村おくりの石」と呼ばれている。その当時大阪港から網干の港に到着したこの塔を村から村へとその村々の篤信家が運んだという。先祖供養の為に宝篋印塔を建てようと決心した人たちが「万人講」という組織を作り、この塔が通るコースの村々へ走って行き、先祖供養の功德を説いて回り宝篋印塔建立の趣旨に賛同した人たちの力を得て、村から村へと駅伝のように送り届けたという。大阪から当地に到着するのに二・三年かかったと言われている。正面並びに側面には、中心となった人たちの名、裏面には、大阪西堀某との石工さんの名前が刻まれている。

## 庚申塔

写真 No.7-1

場所 齊木部落の安養寺

造立時期 不明

所有者 安養寺

### 物件にまつわる話

一般には、辻か交通の要地に建てられているものである。それで、寺の様替えをするか、道路拡張工事かがあるって現地に移動されたものと思われる。



## 五輪塔



写真 No.8

場所 齊木部落の一  
区

船積武士氏宅横  
造立時期 戦国時代  
(1500年前後)

管理者 不明

物件にまつわる話

武士の墓といわれ、  
今でも供養されている。

五大(五体)元素を形どった塔で、人体を表すともいう。

下から地(方) 水(円) 火(角) 風(半月)  
空(宝珠)を表わしている。

## 宝篋印塔

写真 No.9

場所 齊木(一区)部落の岡田豊氏  
そうめん工場裏にある。

造立時期 室町時代中期から後期

管理者 船積一雄

物件にまつわる話

特になし。

宝篋印塔は、ほうきょういんとう宝篋印塔陀羅尼經を納  
ほうきょういんとうだらにきょうめた供養塔で、のちには個人墓塔とし  
ても造立された。



えんの ぎょう じゃ  
役 行 者

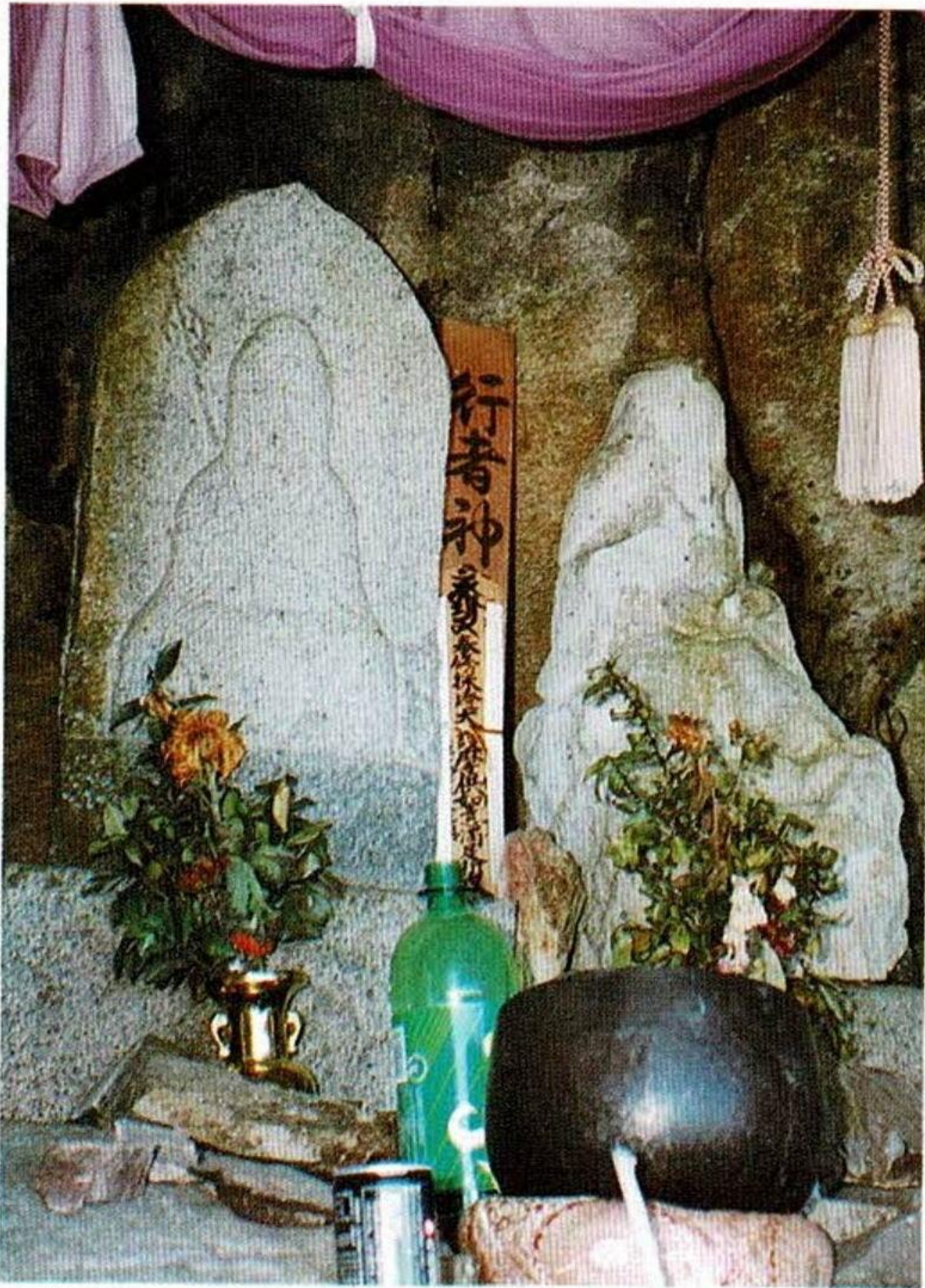


写真 No.10

場 所 齊木部落の行者山

大甲山中腹の行者さん堂内  
造立時期 えんのぎょうじゃ 役行者の方は不明。もう一体  
は田路周三氏作であるから昭  
和時代であろう。

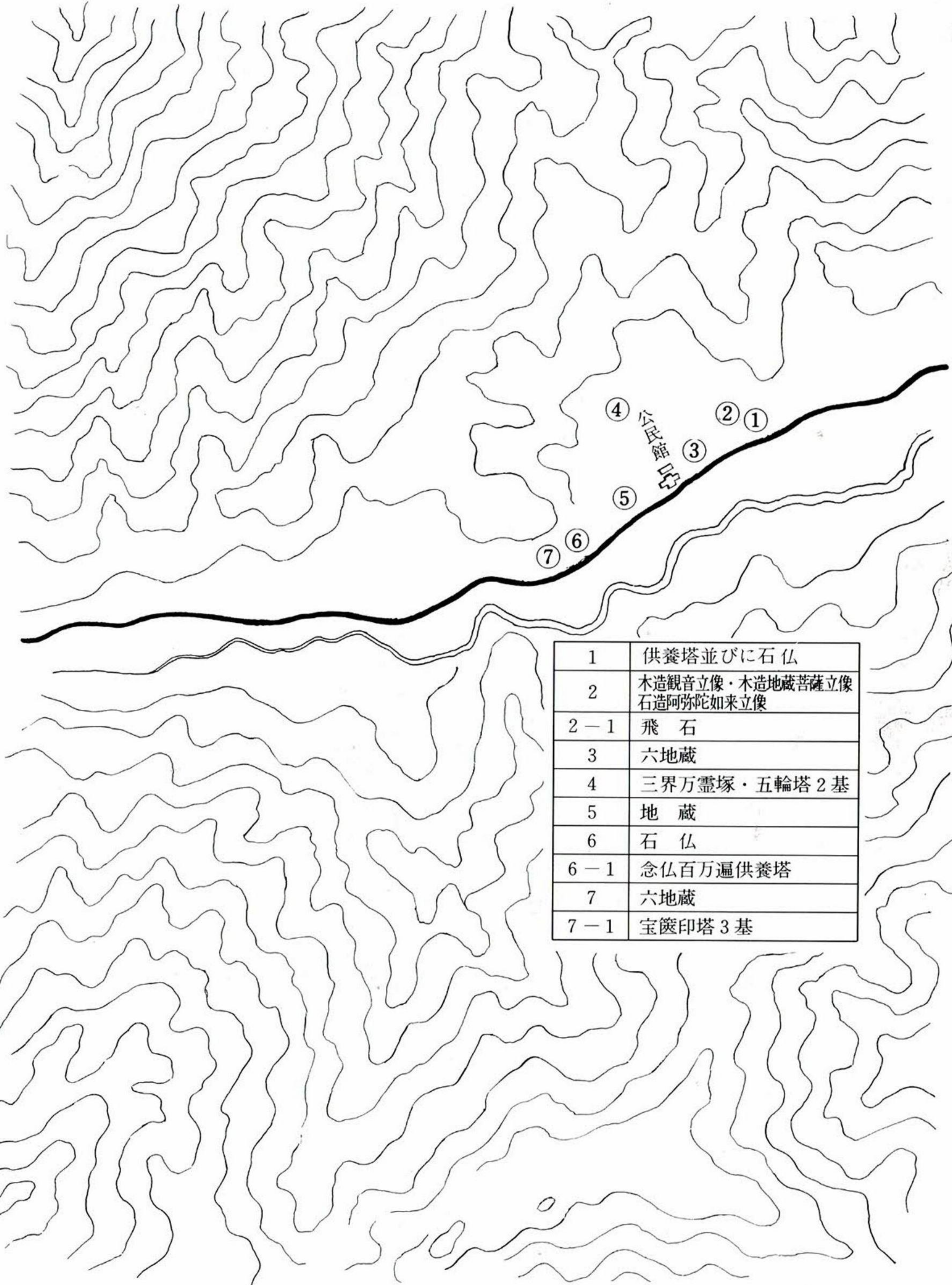
所 有 者 齊木部落

物件にまつわる話

役行者の像であることはわかるが、  
大甲山が焼けたとき熱で石の表面が剥  
がれ字が読めない。

# 齐木二区

# 齐木二区 所在位置图



1	供養塔並びに石仏
2	木造観音立像・木造地藏菩薩立像 石造阿弥陀如来立像
2-1	飛石
3	六地藏
4	三界万霊塚・五輪塔2基
5	地藏
6	石仏
6-1	念仏百万遍供養塔
7	六地藏
7-1	宝篋印塔3基

## 供養塔並びに石仏



写真 No.1

場 所 齊木部落の二区  
観音堂上り口

造立時期 江戸中期

所有者 安養寺

管理者 齊木部落二区

物件にまつわる話

三界万霊供養塔

享保2年(1717年)

法界万霊供養塔

明和6年(1769年)

大乘妙典日本回国塔

寛政8年(1796年)

三界万霊供養塔

文化13年(1816年)

## 木造観音立像・木造地藏菩薩立像 石造阿弥陀如来立像

写真 No.2

場 所 齊木部落の二区  
観音堂

建立時期 江戸時代末期

所有者 安養寺

管理者 齊木部落二区

物件にまつわる話

日本では7世紀から現在にいたるまで一般に普及浸透してごりやくのあらたかな仏として広く信仰されている。

阿弥陀如来は昭和11年に新しくお祀りしたものである。



## 飛石



写真 No.2-1

場所 齊木二区部落の  
飛石  
船積寛治氏宅  
前の藤元への  
道沿い  
同氏倉庫裏の  
祠

造立時期 江戸時代

所有者 飛石家一同

管理者 飛石家一同

### 物件にまつわる話

波賀七郎左衛門光節<sup>とき</sup>の馬かくし伝説に出てくる馬が、井の上で沐浴し、大甲山頂へ跳びそこで空中へ跳ぶときに蹴ったため飛んで来たという石。いわゆる飛石。

## 六地蔵

写真 No.3

場所 齊木二区部落  
の菅谷高則氏  
宅下の県道ぞ  
い

造立時期 明治22年

管理者 齊木二区

### 物件にまつわる話

一つの石に二体ずつ  
彫ってあり計3本で6  
体の地蔵になっている。



## 三界万霊塚 五輪塔2基



写真 No.4

場所 齊木部落の二区  
中村政市氏宅裏

造立時期 室町時代後期  
(16世紀後半)

管理者 中村政市

物件にまつわる話

昔の武家の墓といわれる。五輪さんを供養すると共に、三界の万霊を供養し、村人の安泰を祈ったもの。

## 地蔵

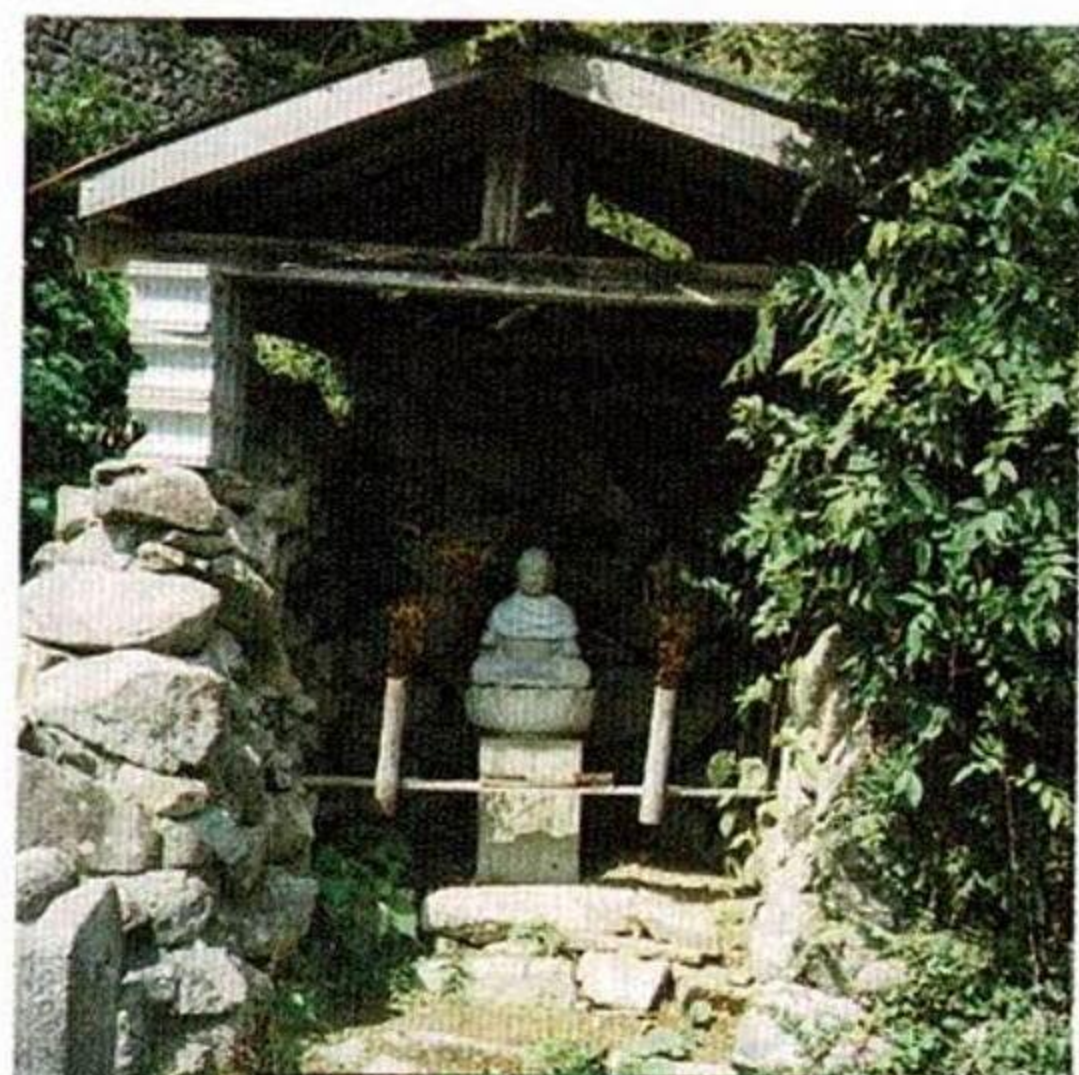


写真 No.5

場所 齊木部落の二区  
鍛木光雄氏宅への下からの上り口

造立時期 宝暦12年 (1762年) 10月  
24日

所有者 菅谷貞市

管理者 菅谷貞市

物件にまつわる話

この地蔵さんの前にも一石五輪の一部が祀ってある。この付近は追っ手に捕われた侍が多く殺されたといわれ、多数の五輪があるが、農地の整地等によりそれぞれ個人の墓地でお祀りされているのが数カ所ある。



## 石 仏



写真 No.6

場 所 齊木二区の田ヤ  
椴木光雄氏宅  
への上り口の  
県道沿いのお  
大師堂

造立時期 ㊦、文化8年  
(1811年)3月  
㊧、大正4年  
12月  
㊨、昭和13年  
5月

### 物件にまつわる話

村人の家内安全を祈願したもの。

所有者 齊木中村講中  
管理者 齊木二区

## 念仏百万遍供養塔

写真 No.6-1

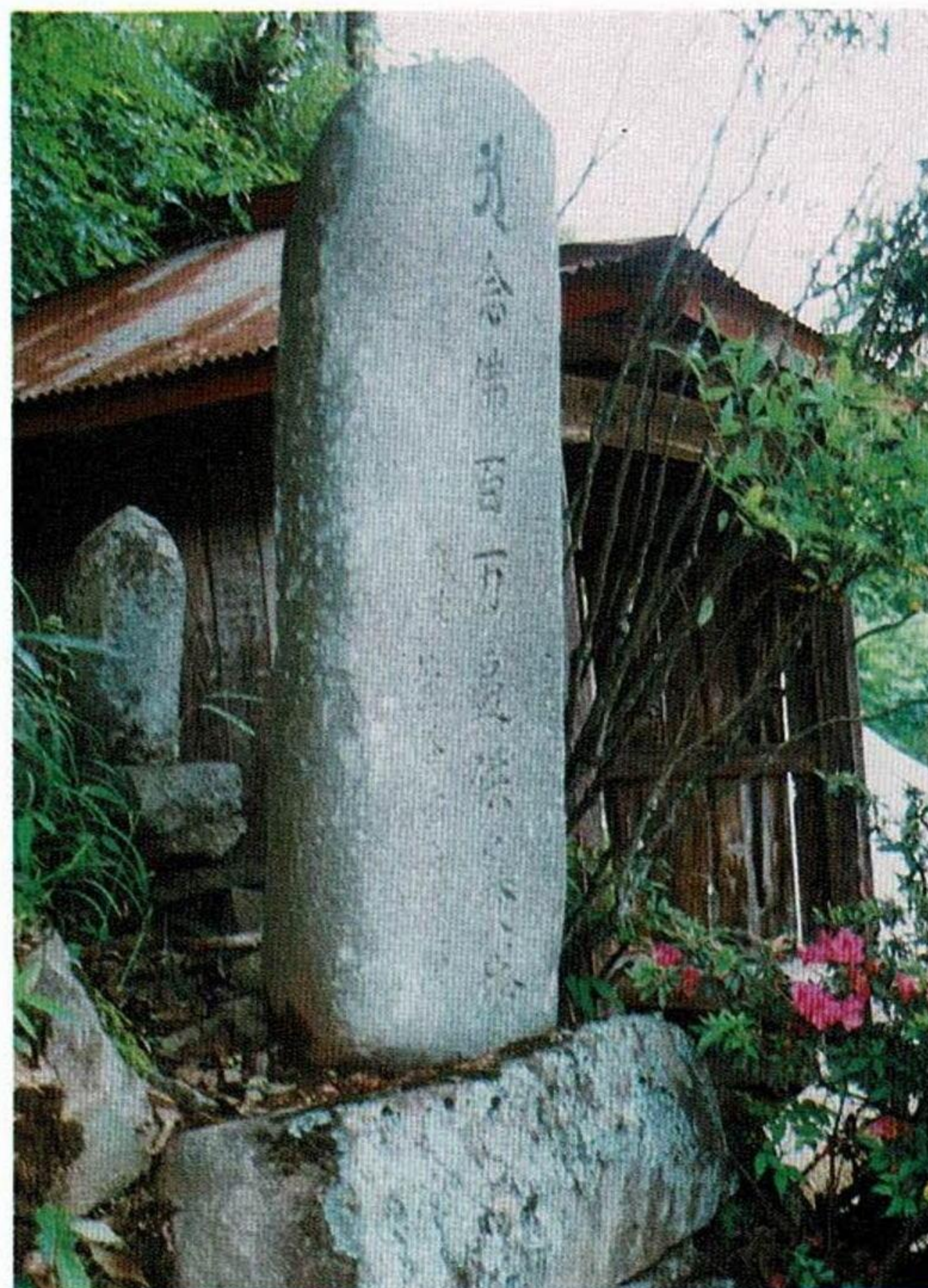
場 所 齊木二区の田ヤ  
椴木光雄氏宅への上り口の  
お大師堂の横

造立時期 明治12年2月

管理者 不明

### 物件にまつわる話

願主菅谷治郎右エ門とある。詳細は  
不明



## 六地蔵



写真 No.7

場所 齊木二区の田ヤ

田住剛氏宅裏の県道沿い

建造時期 昭和7年4月8日

管理者 不明

### 物件にまつわる話

田住りつ・菅谷ちさ両名が中心となって建立した。元田ヤの<sup>かみ</sup>上にあつたのを、道路拡張のため現在地に移した。

## 宝篋印塔3基

写真 No.7-1

場所 齊木二区の田ヤ<sup>かみ</sup>の上  
県道沿い

造立時期 室町時代前期～  
中期 (1400年～  
1470年)

所有者 田住 剛

管理者 田住 剛

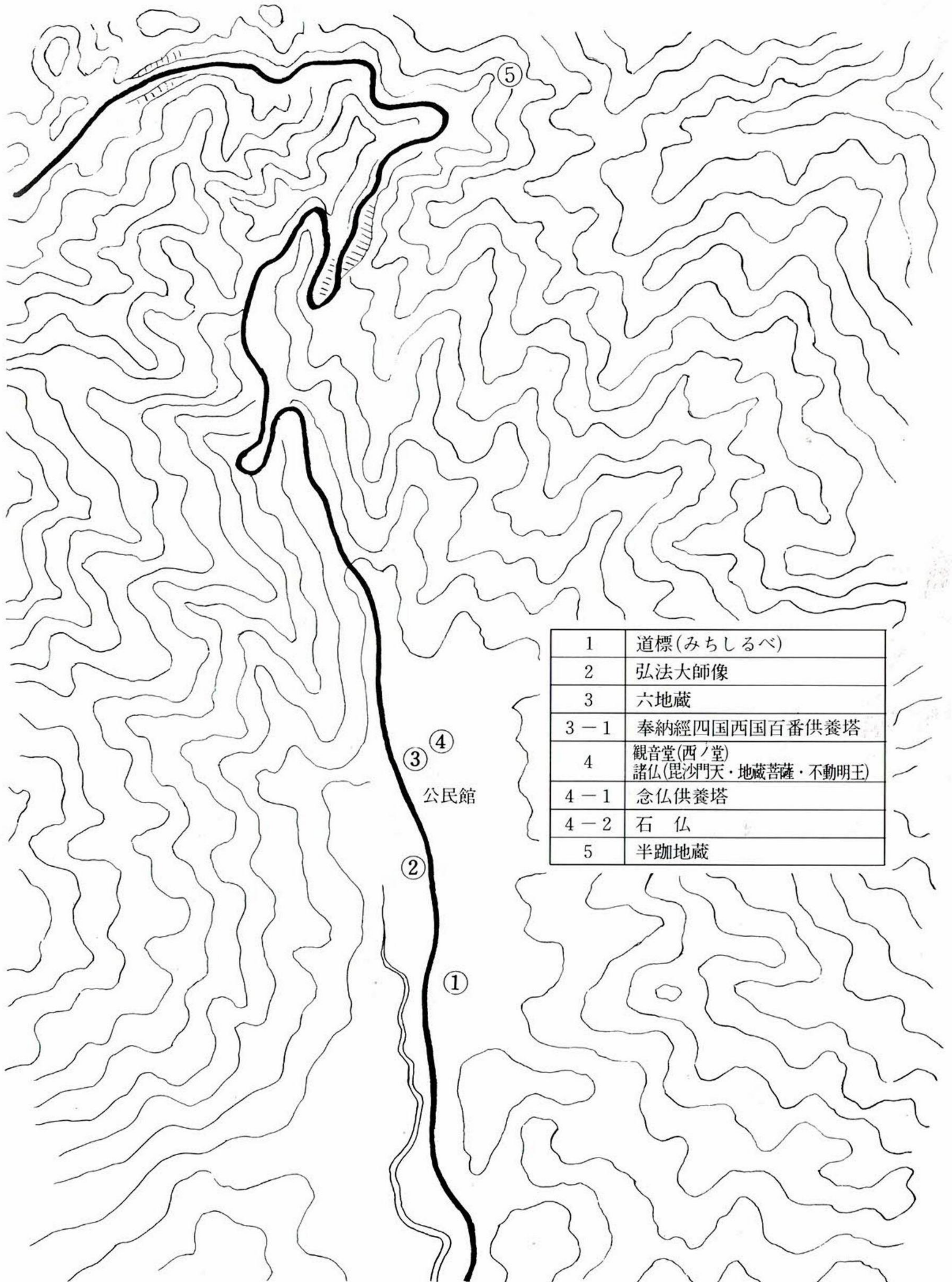
### 物件にまつわる話

3体のうちの左端は町指定文化財として第一集に収録済み。



# 齐木三区

# 齐木三区 所在位置図



1	道標(みちしるべ)
2	弘法大師像
3	六地藏
3-1	奉納經四国西国百番供養塔
4	観音堂(西ノ堂) 諸仏(毘沙門天・地藏菩薩・不動明王)
4-1	念仏供養塔
4-2	石 仏
5	半跏地藏

## 道標 (みちしるべ)



写真 No.1

場所 齊木部落のゴソロ山一の戸

建造時期 明治初期

管理者 齊木部落

物件にまつわる話

右やま 左つた (山崎町) と、刻まれている。

## 弘法大師像



写真 No.2

場所 齊木字流田

中田進氏宅下

天保年間に移した。

造立時期 昭和47年現在場所に移転、屋

根改造

管理者 近所の人

物件にまつわる話

昔、お堂があったが、火事で焼けて祀りかえたものである。お大師様を祀りかけてからは流田地区では一番古いものである。

中田進氏宅横に、日光寺住職の風呂場があった。その住職が死んで、その後地域の人々が祀っていたと云われている。

なぜ風呂があったかといえば、日光寺は女人禁制で、女と云えば風呂たきだけで女と話すことが出来なかった。そこで住職は村に風呂を建て、風呂入りには村へ下って酒を飲んだり、女の人と話すことが楽しみでそのため建てたものと言われている。

## 六地蔵



写真 №.3

場所 齊木字流田  
三区消防ポン  
プ器庫横

造立時期 江戸時代中期

管理者 近所の老人の  
方数名

### 物件にまつわる話

子孫繁栄と交通の安全を祈って建てられる。

地蔵・宝処・宝手・持地・宝印手・堅固意の六菩薩が基本であると言われている。路傍に見られる石地藏尊は、殆んど江戸時代の作で、塞の神、道祖神と習合した結果である。

## 奉納經四国西国百番供養塔

写真 №.3-1

場所 齊木字流田、三区消防ポン  
プ器庫横

造立時期 寛政9年(1797年)巳年10月  
1日願主

管理者 近所の老人の人々

### 物件にまつわる話

村人の家内安全を祈願したもの。



## 観音堂(西ノ堂)諸仏(毘沙門天・地蔵菩薩・不動明王)



写真 No.4

場所 齊木字前地前田優氏宅横

建立時期 中央の像 寛政6年  
(1794年) 3月3日  
左右の仏像 建立不明

管理者 中老の人々

### 物件にまつわる話

白雲山日光寺の分堂として建立し、火状尊蔵が祀ってある。非常にあらたかな仏像といわれ、途中で像が塗りかえられている。その堂に数珠じゆずがあり、村人が集って念仏をとえながら廻していたと伝えられている。

## 念仏供養塔

写真 No.4-1

場所 齊木字前地  
前田優氏宅前の西ノ堂

造立時期 明治28年3月

管理者 近所の人々

### 物件にまつわる話

一般には塔を建て死者の霊を呼び寄せた。塔前に諸物を供え、又、灯りもつけて仏名を唱え(特に阿弥陀仏)その霊を慰め、又自ら加護も祈る塔と言われる。



## 石 仏



写真 No.4-2

場 所 齊木字前地  
前田優氏宅横

造立時期 江戸時代

管 理 者 近所の人々

### 物件にまつわる話

3月21日をお大師様の日としてあずきめし（おにぎり）、おはぎをお供し、それを子供達がいただいていたといわれている。

## 半 跏 地 蔵

写真 No.5

場 所 齊木部落の前地  
千種町との境  
(峠)

造立時期 永禄（1558年  
～1570年）年  
中と伝える。

所 有 者 齊木部落

管 理 者 齊木部落



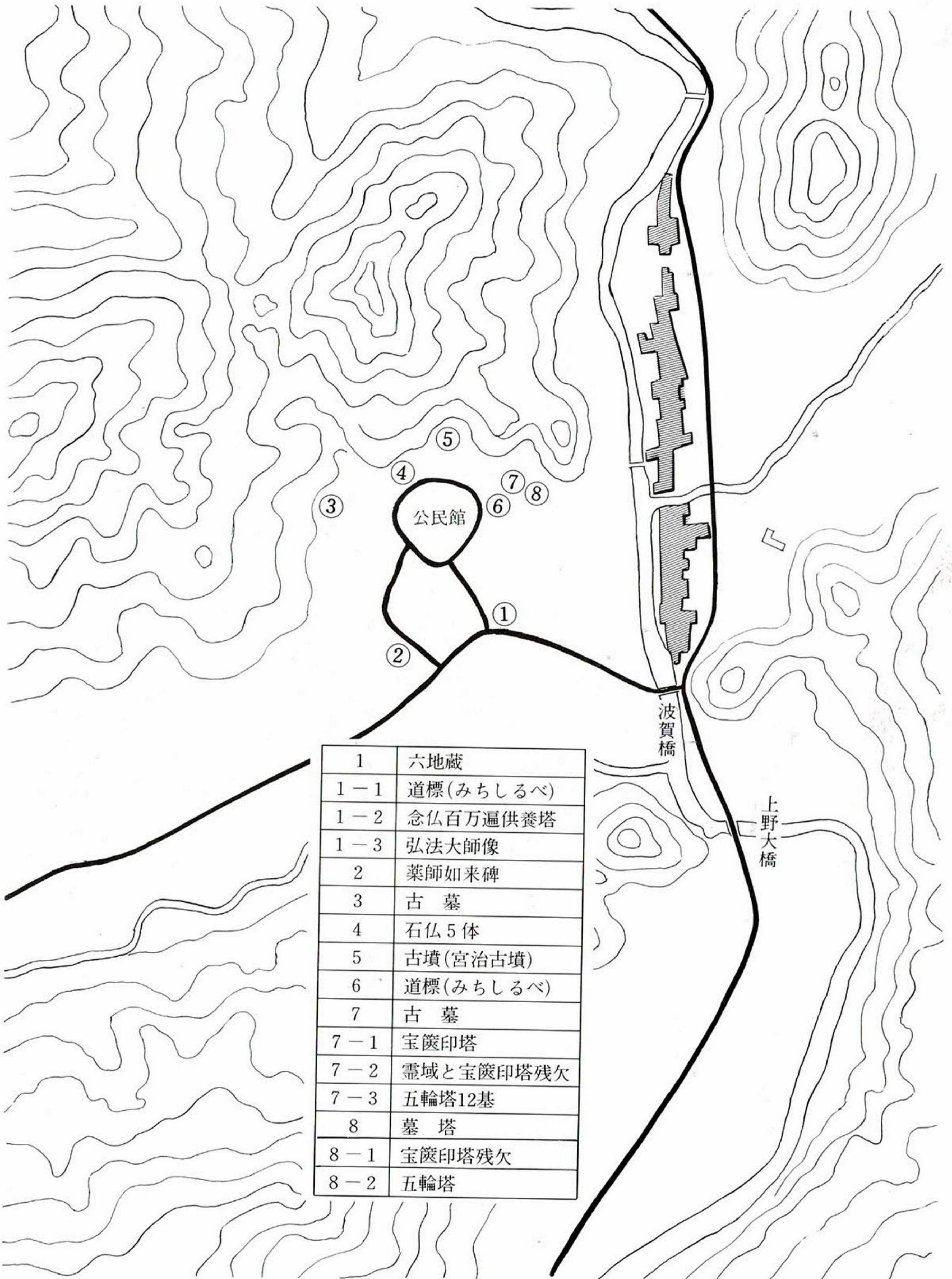
### 物件にまつわる話

波賀町と千種町との境(峠)に造立され、白雲山日光寺に参拝する人は勿論のこと、ここを通る人もここでは一休みして安全を祈り造立したものと思われる。直ぐ側の大杉は罰を恐れて切る者もなく老樹となり守り本尊として四方を圧巻しているようである。



賀 有

# 有賀地区 所在位置図



# 有 賀



# 六地蔵



写真 №.1

場所 有賀部落の中央部 県道朝来大原線と町道の辻にあたる。

造立時期 昭和48年

管理者 有賀部落

## 物件にまつわる話

六地蔵とは六道(地獄)(餓鬼)(畜生)(修羅)(人道)(天道)と言う六つの道に現われて衆生(一切の生物)を救いお守り下さる地蔵菩薩と言う意味。有賀の六地蔵は初めは飯見越山道の辻に建てられていたが参拝に不便な為、明治中期現在地に移転、後、仏体がひどく毀損した為、昭和48年に新しく造立、上屋根も改築した。

# 道標 (みちしるべ)

写真 №.1 - 1

場所 有賀部落の中央

建造時期 文政元戊寅年(1818年)六月

管理者 有賀部落

## 物件にまつわる話

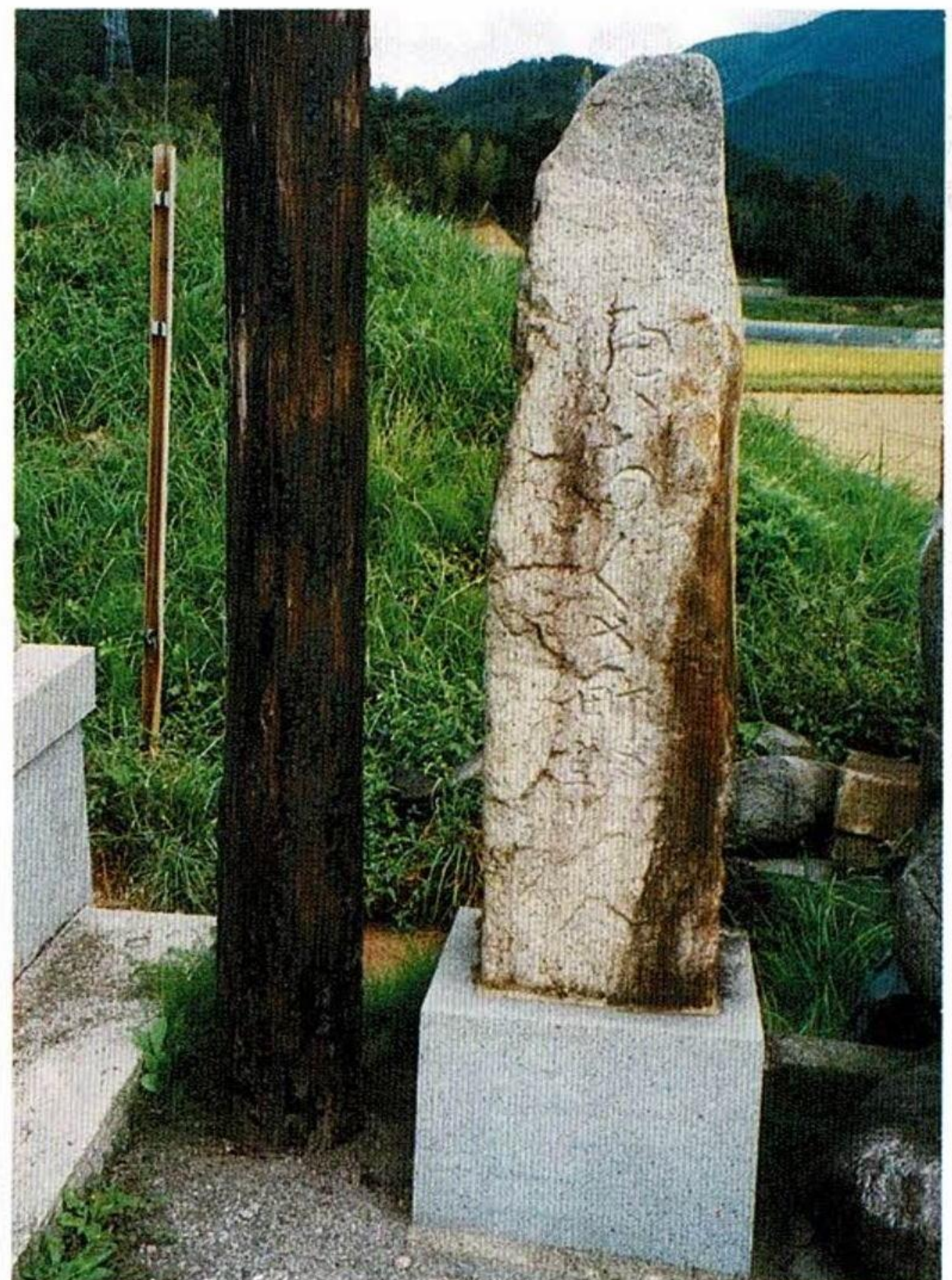
表

南ハ一宮へ三リ  
西ハちくさ町へ三リ  
引原村へ三リ

裏

文政元戊寅年六月  
東ハみかた町へ三里  
泉州石工嘉兵衛

と、刻まれている。



## 念仏百万遍供養塔



写真 №.1 - 2

場 所 有賀部落の中央

造立時期 明治25年

推定。

管 理 者 有賀部落

### 物件にまつわる話

有賀梶本静雄宅敷地内に建っていた。此の辺一帯はちょうど引原川と斉木小川との合流地点で大水がでるたびに被害を受けた所と思われる。或る年の大水害に田畑、家屋を流され部落の人達が村中の安全を祈願して造立したものと思われる。

世話人名は宮治吉郎右衛門 坂本久兵衛とある。

昭和62年(1987年)6月11日所有者の依頼により現地に移転。

## だいしぞう 弘法大師像

写真 №.1 - 3

場 所 有賀部落の中央

造立時期 文政13寅年  
(1830年)

7月21日

管 理 者 有賀部落

### 物件にまつわる話

大師とは衆生(生物一切)を導いて悟りを

開かせる師という意味で、朝廷から高僧に、死後に贈られる尊号。普通には弘法大師(空海)の事を言う。ここは昔からの交通の要地で側の道標(1818年)と共に一思案の休憩場所、祈願場所でもあったと思われる。明治中期、飯見越山道の六地藏もここに移転され、更に昭和62年には百万遍供養塔も移転された。昭和55年5月8日上屋再建



## 薬師如来碑

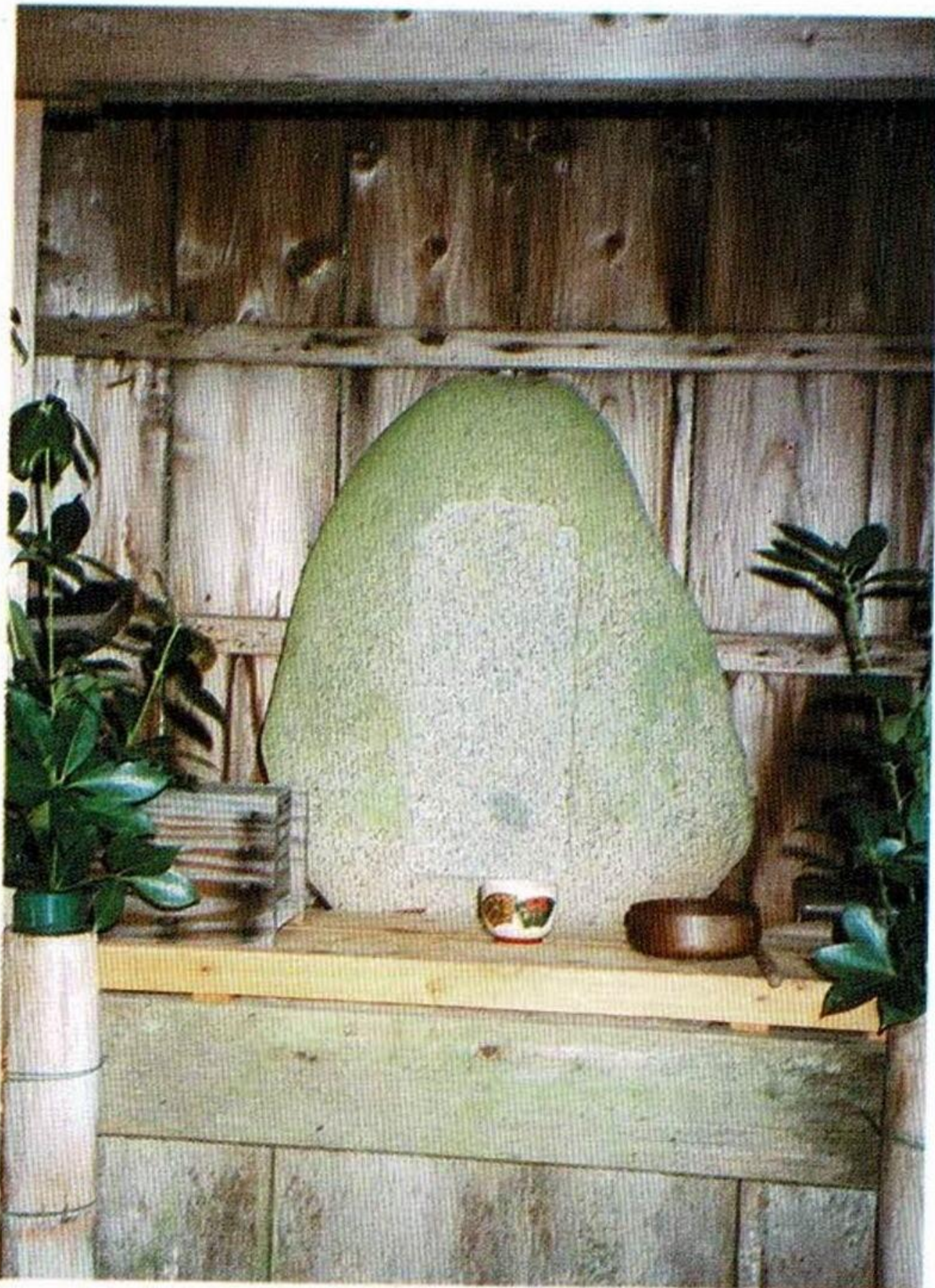


写真 No.2

場所 有賀部落の西

造立時期 昭和7年12月再建

管理者 岸本茂市

### 物件にまつわる話

通称石やくしさん又は耳やくしさんと言うところから特に耳の病気にあらたかな薬師如来。

(薬師琉璃光如来、又は大医王仏と言う)

御堂が建てられたのは昭和初期と思われる、近くの墓地所有者岸本さんは自分の先祖墓と同様丁寧に祀られている。何時もお花が立てられ、清掃用具も置かれている。

## 古 墓

写真 No.3

場所 有賀部落の西外れ

町道飯見線沿

造立時期 不明

管理者 山田幸吉

### 物件にまつわる話

齊木(前地)の前田豊氏の先祖の墓であると言われている。只の石と間違え子供が時々いたずらをしたり小便をしたりする事があると聞く。その時は即天罰が下ると言う。



## 石 仏 5 体



写真 №.4

場 所 有賀部落の西  
観音堂内

造立時期 明和3年3月  
(1766年) 安政  
5年7月吉日  
(1858年) 享和  
3年11月  
(1803年)

管 理 者 有賀部落

### 物件にまつわる話

観音堂は明治44年頃宮寄せがあり、有賀西向きに建っていた荒神社の本殿を安賀八幡神社に移転し、拝殿を現在地に移転したと聞く。昭和54年頃改築した時屋根裏から荒神社改築の棟札が出て来たので直ぐ八幡神社に納めた。堂内には五体の仏像が祀られ、有賀唯一の観音堂で信者も多く何時も清掃され線香の匂いも絶えたことがない。

## こふん 古墳 (宮治古墳)

写真 №.5

場 所 有賀部落の西  
北

造立時期 古墳時代後期  
(6世紀ごろ)

所 有 者 有賀部落

管 理 者 有賀部落



### 物件にまつわる話

昔、付近一帯を統治  
していた豪族の墓。

横穴石室古墳の羨道部せんだう(入口)と思われ、  
巨大な天井石を側壁の石が支えている。

## 道標 (みちしるべ)



写真 No.6

場所 有賀部落の志水良平氏宅裏  
黒住教講社の北

建造時期 江戸時代 (1603年～1867年)  
後期

お大師さん横の道標文政元年  
(1818年) から推定

所有者 志水良平

管理者 志水良平

物件にまつわる話

上野、皆木へ行く為の唯一の橋を渡  
る為の交通の要地であったと思われ、

右 田 作 み ち	右 上 の は し	み な き
-----------------------	-----------------------	-------------

とある。

## 古 墓

写真 No.7

場所 有賀部落の北端

造立時期 宝永2年 (1705年) 酉8月17  
日

所有者 中村甚太郎

管理者 中村甚太郎

物件にまつわる話

尼様の墓と言われている。





ほうきょういんとう

## 宝篋印塔



写真 No. 7-1

場所 有賀部落の北端

造立時期 室町時代

中期 (1500年前後)

所有者 中村甚太郎

管理者 中村甚太郎

### 物件にまつわる話

宝篋印塔の笠部に、五輪塔の風。空輪をのせている。このような残欠部を混合したものは山田和男家の墓群にも一基みられる。

## 霊域と宝篋印塔残欠

写真 No. 7-2

場所 有賀部落の北端

造立時期 室町時代

前期～後期

所有者 中村甚太郎

管理者 中村甚太郎



### 物件にまつわる話

この一帯は、中世以来の霊域（共同墓地）だったようだ。石垣の部材に混ざって、宝篋印塔や五輪塔の残欠が散在している。

## 五輪塔12基



写真 No.7-3

場所 有賀部落の北端

造立時期 室町時代前期  
後半～中期頃

所有者 中村甚太郎

管理者 中村甚太郎

### 物件にまつわる話

室町時代前期後半から中期にかけての五輪塔がずらりと並んでいる。昔は付近一帯に散在していたが、参拝に手間取る為現在のようにまとめられた。

後ろには宝篋印塔も立っている。

## 墓 塔

写真 No.8

場所 有賀部落の北端

造立時期 不明

所有者 中村 保

管理者 中村 保

### 物件にまつわる話

信女の文字があるので、女性の墓と思われる。



## 宝篋印塔残欠



写真 No. 8 - 1

場所 有賀部落の北端

造立時期 室町時代 前期

所有者 中村 保

管理者 中村 保

### 物件にまつわる話

宝篋印塔の相輪と笠部の残欠。

室町時代前期のものと思われ、この時代は個人の墓塔ではなく、供養塔として造立された。

## 五輪塔

写真 No. 8 - 2

場所 有賀部落の北端

造立時期 室町時代 後期～桃山時代

所有者 中村 保

管理者 中村 保

### 物件にまつわる話

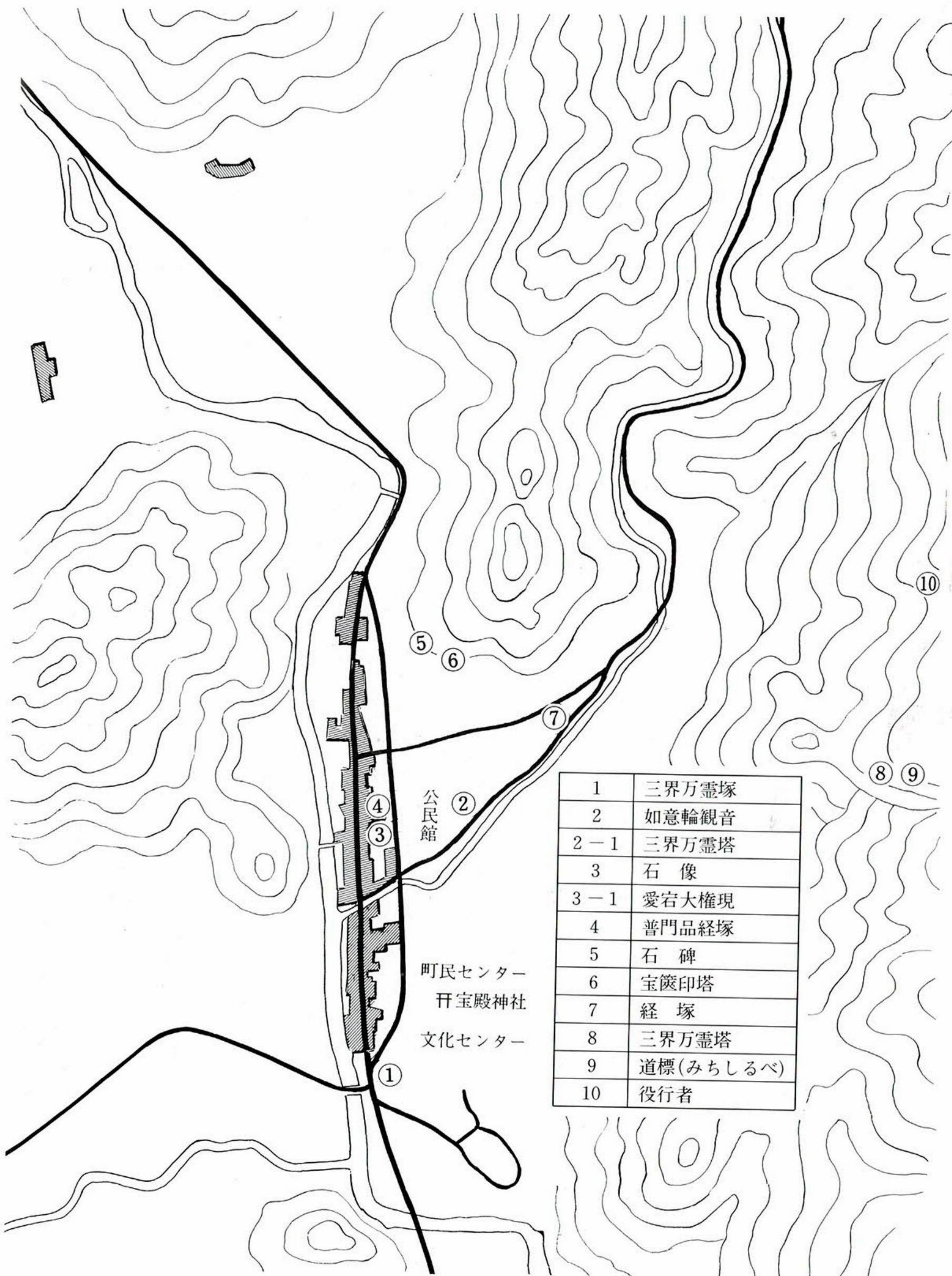
五輪塔は、下から地・水・火・風・空輪の五輪から成る供養塔で、平安時代後期から現れ、後世では個人の墓塔にもなった。偈頌（仏を讃える言葉）に「一見卒都婆、永離三悪道」とあるように、卒都婆（五輪塔や宝篋印塔など）をちょっと見るだけで地獄、餓鬼、畜生の三つの悪い世界（道）から逃れることができるといわれ、ましてそれを造立すればどれだけ功德があるか図り知れないということで盛んに造立された。



上野地区 所有権地図

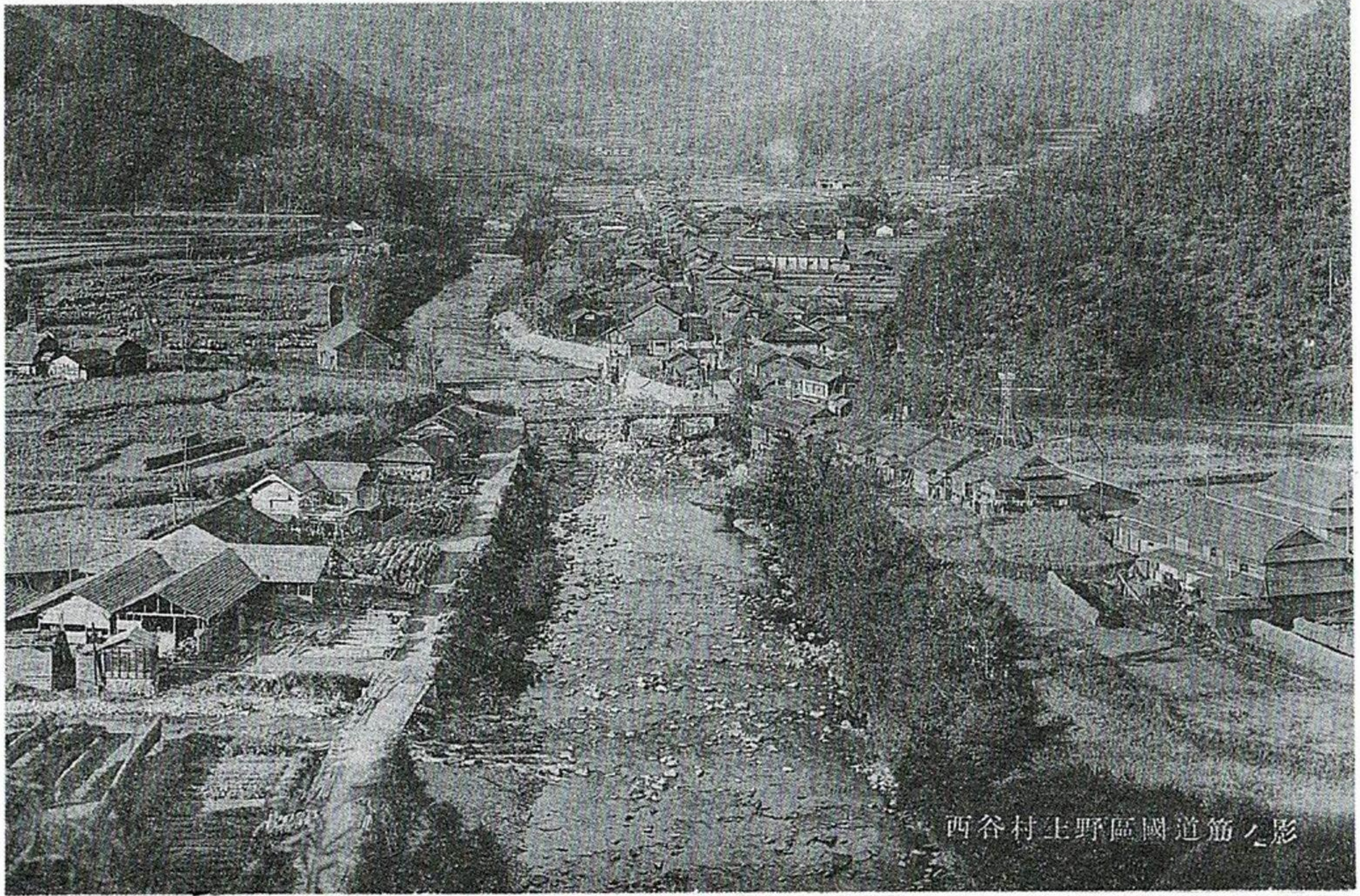
# 上野

# 上野地区 所在位置図

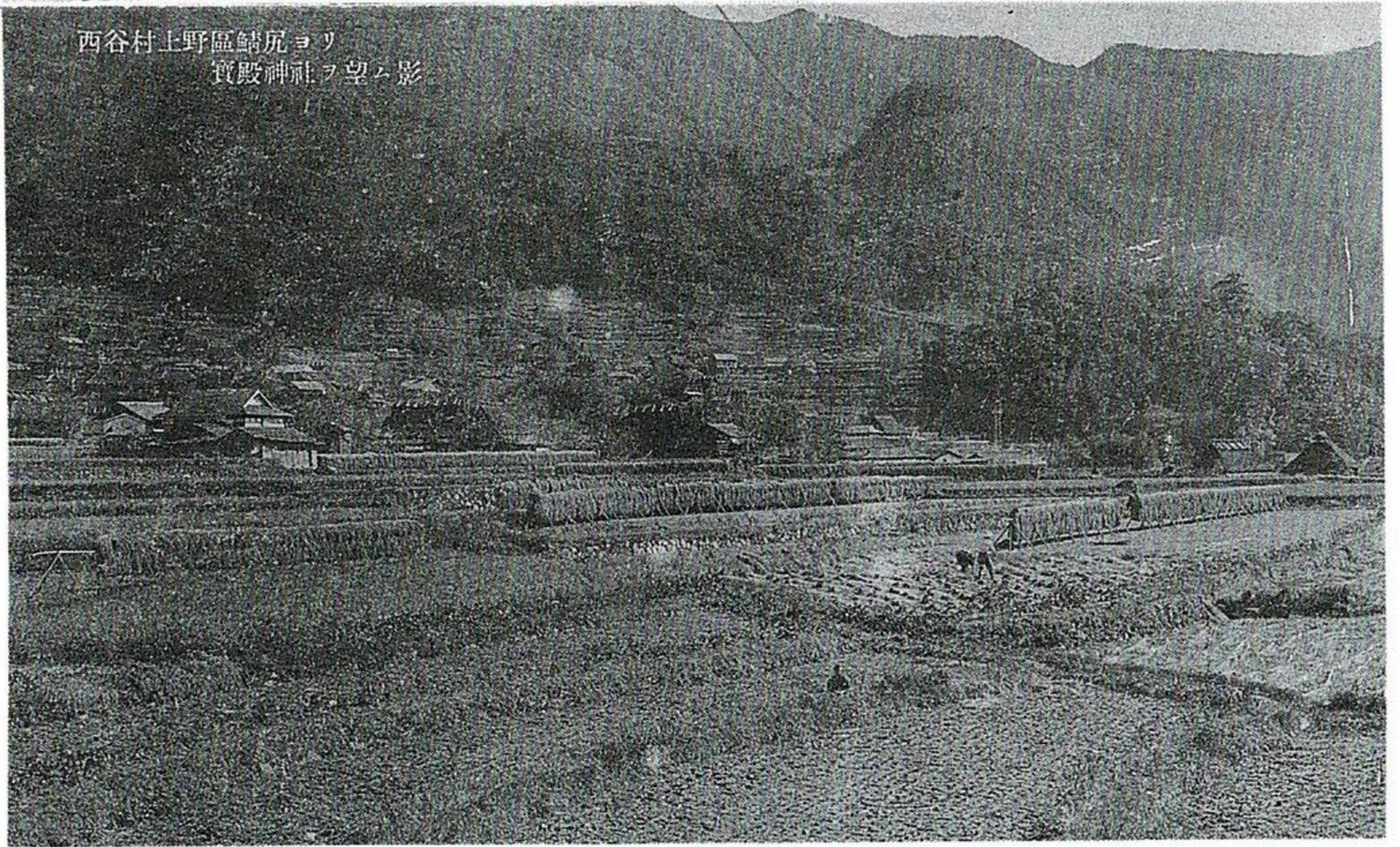


1	三界万霊塚
2	如意輪観音
2-1	三界万霊塔
3	石像
3-1	愛宕大権現
4	普門品経塚
5	石碑
6	宝篋印塔
7	経塚
8	三界万霊塔
9	道標(みちしるべ)
10	役行者

# 上野



西谷村上野區國道筋ノ影



西谷村上野區結尻ヨリ  
寶殿神社ヲ望ム影

## 三界万霊塚



写真 No.1

場所 上野部落の字城

造立時期 明治13年7月

管理者 上野部落

### 物件にまつわる話

引原川を渡る板橋で通行人が度々川に落ちたのでその罹災者の供養をする為に造立した。今後災害をなくする為に、岩見豊平の呼びかけで上野有賀両部落有志の中から世話人を選び橋を架ける。其の当時常盤橋と言われ美しい橋で有ったと言う。

大工・山村長助

## 如意輪観音

写真 No.2

場所 上野部落  
公民館の横

造立時期 江戸末期頃

管理者 上野部落

### 物件にまつわる話

堂内には地藏尊と西国第一番がお祀りされており上野～水谷～皆木の地区内に西国三十三番までお祀りされている。



## 三界万霊塔



写真 No.2-1

場所 上野部落公民館の横

造立時期 明治6年10月

管理者 上野部落

物件にまつわる話

万霊を供養したもの

## 石像

写真 No.3

場所 上野部落の字  
松本

造立時期 安永7年  
(1778年)より  
大正初期まで

管理者 上野部落

物件にまつわる話

堂内には六地蔵を始め地蔵尊不動明王等諸  
仏が祀られている。





あたご だいごんげん  
**愛宕大権現**



写真 №.3-1

場 所 上野部落の字松本

造立時期 明治15年8月

管 理 者 上野部落

**物件にまつわる話**

火災鎮護の為に里人が造立したものと  
思われる。

ふもんぼんきょうづか  
**普門品経塚**

写真 №.4

場 所 上野部落の字松本

造立時期 天保15年（1844年）7月7日

管 理 者 上野部落

**物件にまつわる話**

普門品とは法華経の中で観音菩薩の  
ことを説いた章の意味であるが、下記  
の様に道標としても昔から地元の人達  
はいい伝えている。

右三方町三里  
左引原村三里  
施主 岡本省大夫

と、刻まれている。



# 石 碑



写真 No.5

場 所 上野部落の鯖尻<sup>さばしり</sup>

建立時期 不明

管 理 者 不明

## 物件にまつわる話

諏訪神社に目通り6m～7mのケヤキがあり、京都の本願寺から再建の為、寄付するように来られた。しかし「無キズの為、譲る事はできないと氏子はことわった。それを聞いた旅館の娘が「明日、あなた達をもって帰れるようにいたしましょう。」と言った。翌朝そのケヤキで娘は首を吊っていた。その為、木は本願寺に持って帰れるようになったが、出すのに重くどんな绳を使っても切れる為、女性の毛髪で绳を作り大水の出るのを待ち（明治2年の台風）京都に運んだ。その時、使われた毛髪は東本願寺に今も保存されている。

# 宝 篋 印 塔

写真 No.6

場 所 上野部落の宇鯖尻

造立時期 不明

管 理 者 森下良雄

## 物件にまつわる話

小野難波彦六宝篋印塔と同じ年代の物か同じ石工の作である。



## 経 塚

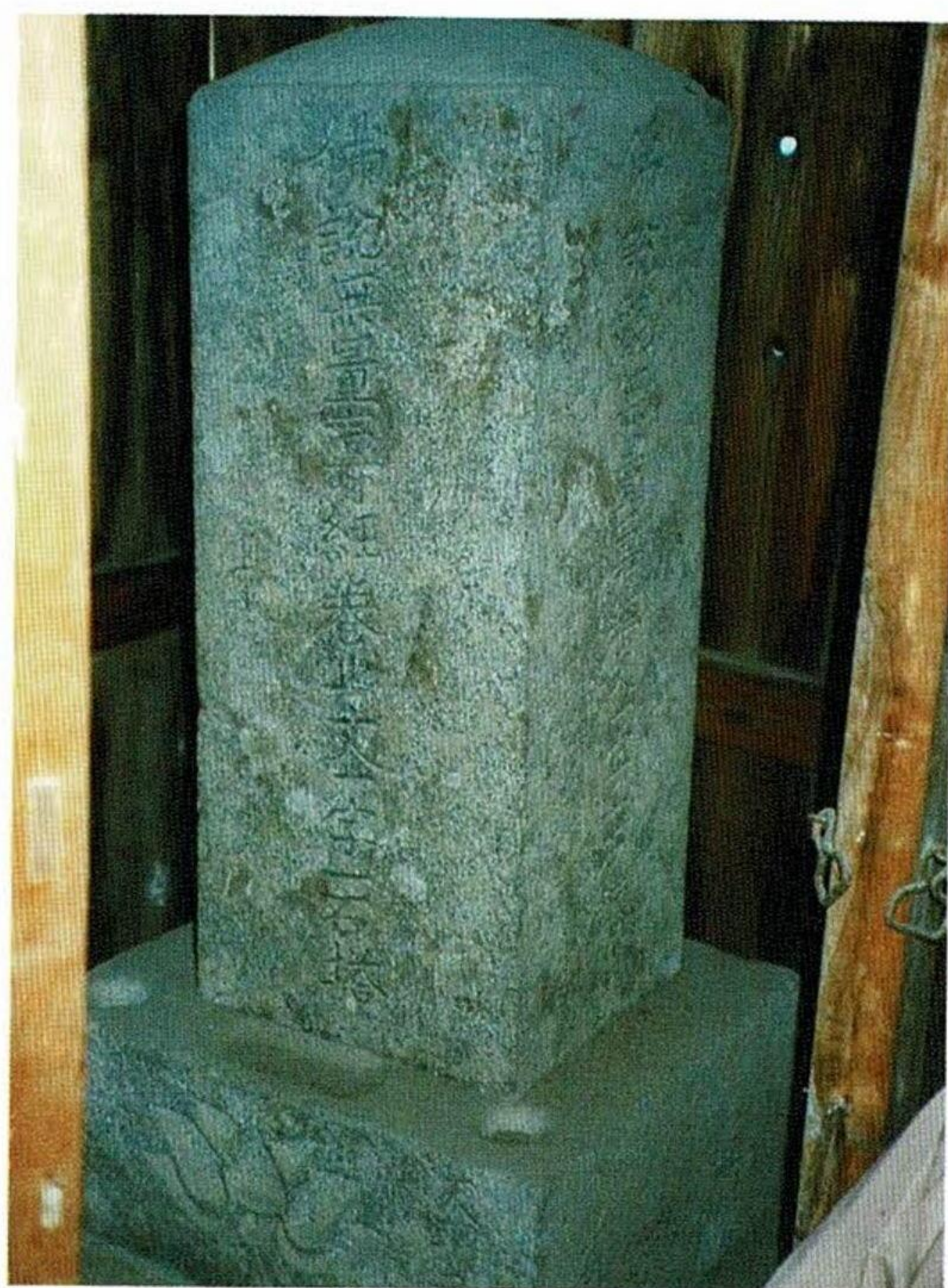


写真 No.7

場 所 上野部落の字岡住

造立時期 天明元年辰9月(1781年)

管 理 者 不明

物件にまつわる話

二臂千手観世音

西国十番

佛説無量壽經卷四十八一字一石塔と  
印されている。

## 三界万霊塔

写真 No.8

場 所 上野部落の東山深河谷ごし

造立時期 文化14年(1817年)

管 理 者 上野部落

物件にまつわる話

供養塔であるが、上部と下部が分れ  
ている。



## 道標 (みちしるべ)



写真 No.9

場所 上野部落の東山深河谷越し

建造時期 江戸末期頃

管理者 上野部落

物件にまつわる話

右ふかだに、  
左山みち、

と、彫ってある。

## えんの ぎょう じゃ 役 行 者

写真 No.10

場所 上野部落の井ノ谷八合目付近

造立時期 寛政十二年 (1800年) 庚申ノ  
年

管理者 山田組一同

物件にまつわる話

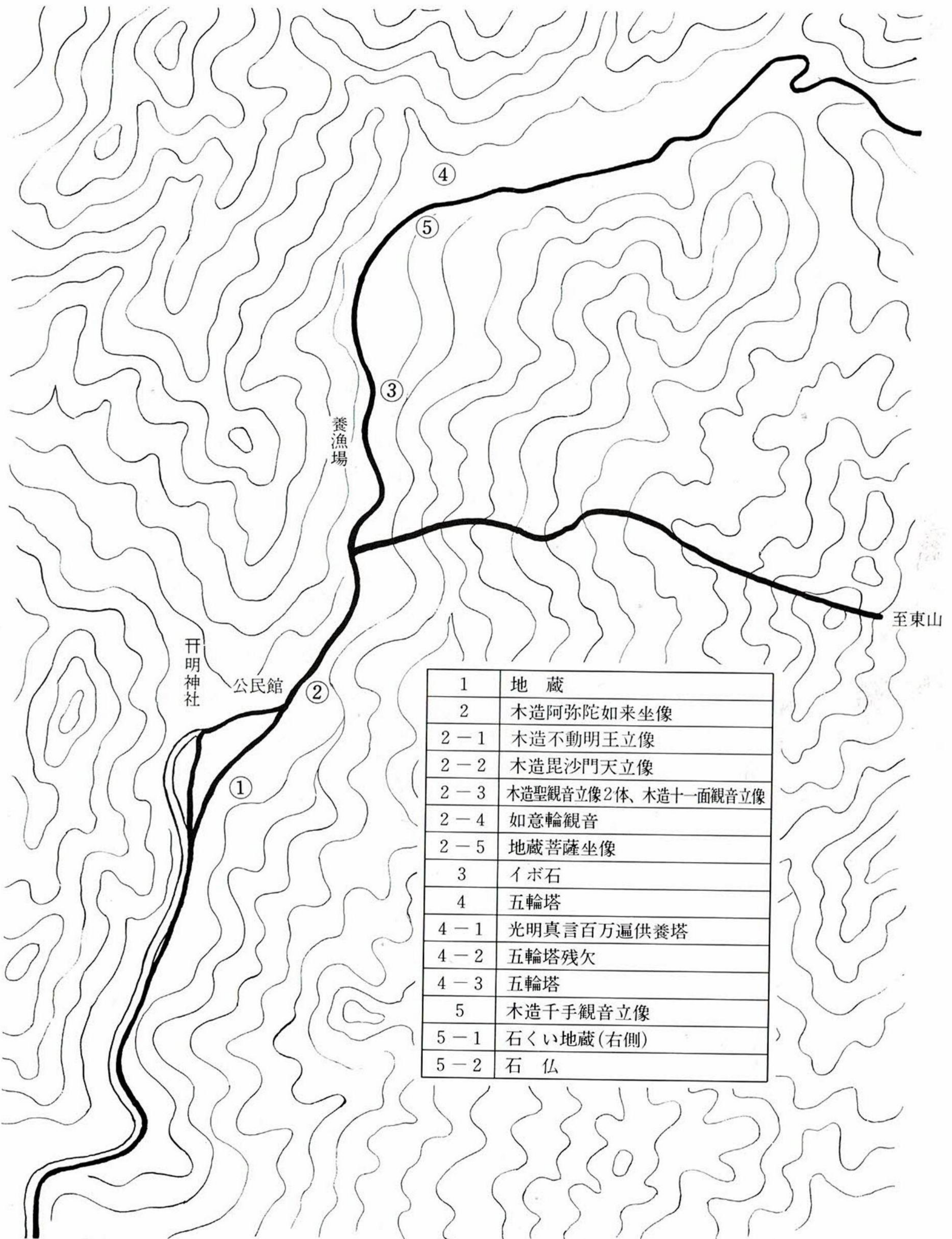
30cm余りの赤鬼、青鬼を友として座されている。

行者堂口に高さ50cm直径28cmの半鐘がある。民人の安泰を願って、ひとつつけば、井ノ谷全山にひびき下界の部落までこだまする美しい音色の鐘である。



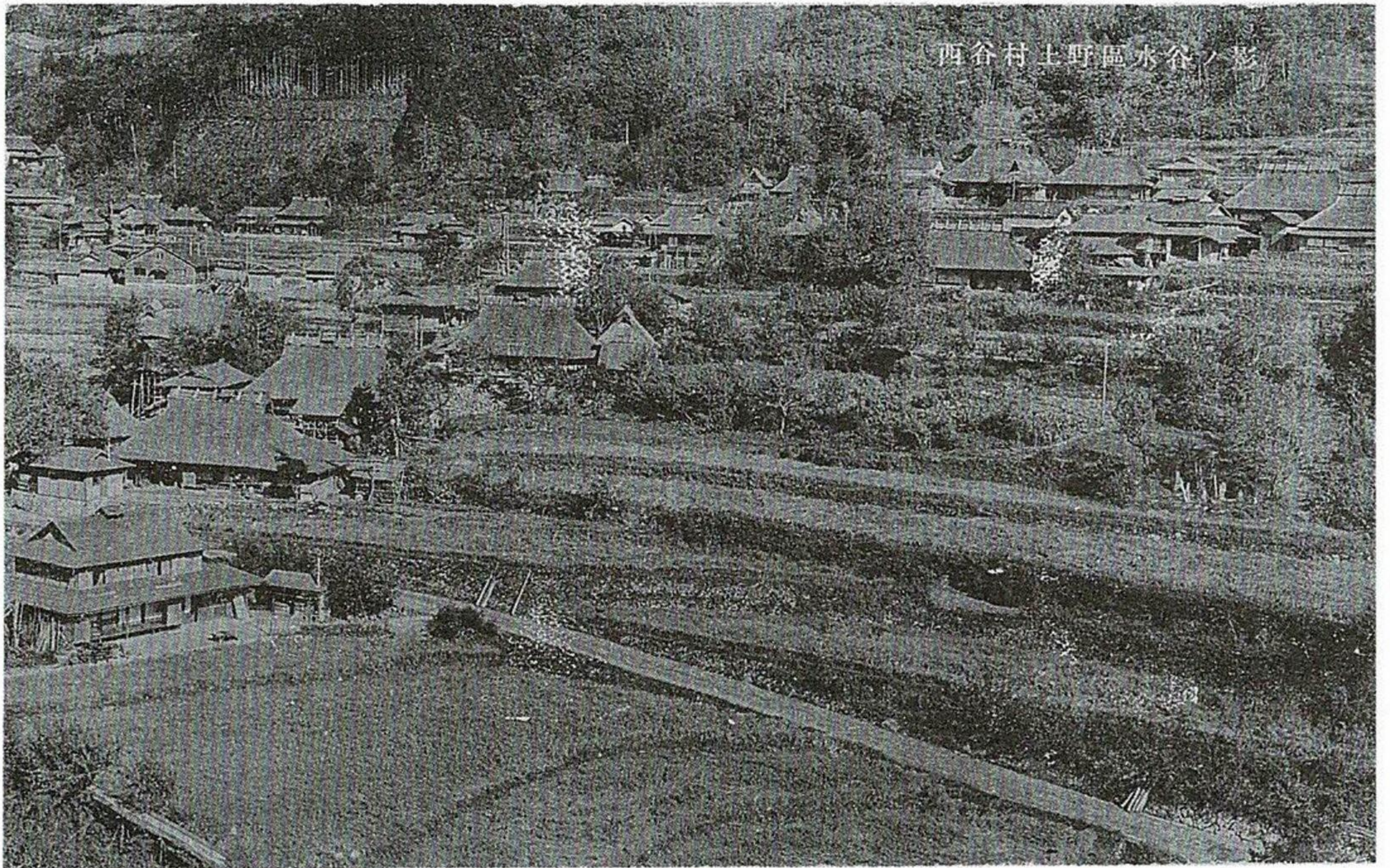
水 谷

# 水谷地区 所在位置図



1	地藏
2	木造阿弥陀如来坐像
2-1	木造不動明王立像
2-2	木造毘沙門天立像
2-3	木造聖観音立像2体、木造十一面観音立像
2-4	如意輪観音
2-5	地藏菩薩坐像
3	イボ石
4	五輪塔
4-1	光明真言百万遍供養塔
4-2	五輪塔残欠
4-3	五輪塔
5	木造千手観音立像
5-1	石くい地藏(右側)
5-2	石仏

# 水 谷



## 地蔵



写真 No.1

場所 水谷

岡前永行さん宅横

造立時期 明治26年

管理者 水谷部落

### 物件にまつわる話

子供が川におち、事故があった。それ以後祭ったと伝えられている。

## 木造阿弥陀如来坐像

写真 No.2

場所 水谷部落の阿弥陀堂

建立時期 室町～江戸時代頃

管理者 水谷部落

### 物件にまつわる話

しっぽく  
漆箔、ケヤキ一木造り, 像高 80.5cm

定印の印相を結ぶ阿弥陀像。一木造りで木心を取るため背中から内割りを行う。膝部はホウノキと思われる。衣は両肩をおおう(通肩)。表情は他に例がない特異なものである。像の表面は漆うるしの上に金箔を貼る(漆箔)。制作年代は判定しがたいが、およそ室町～江戸時代と思われる。





## 木造不動明王立像

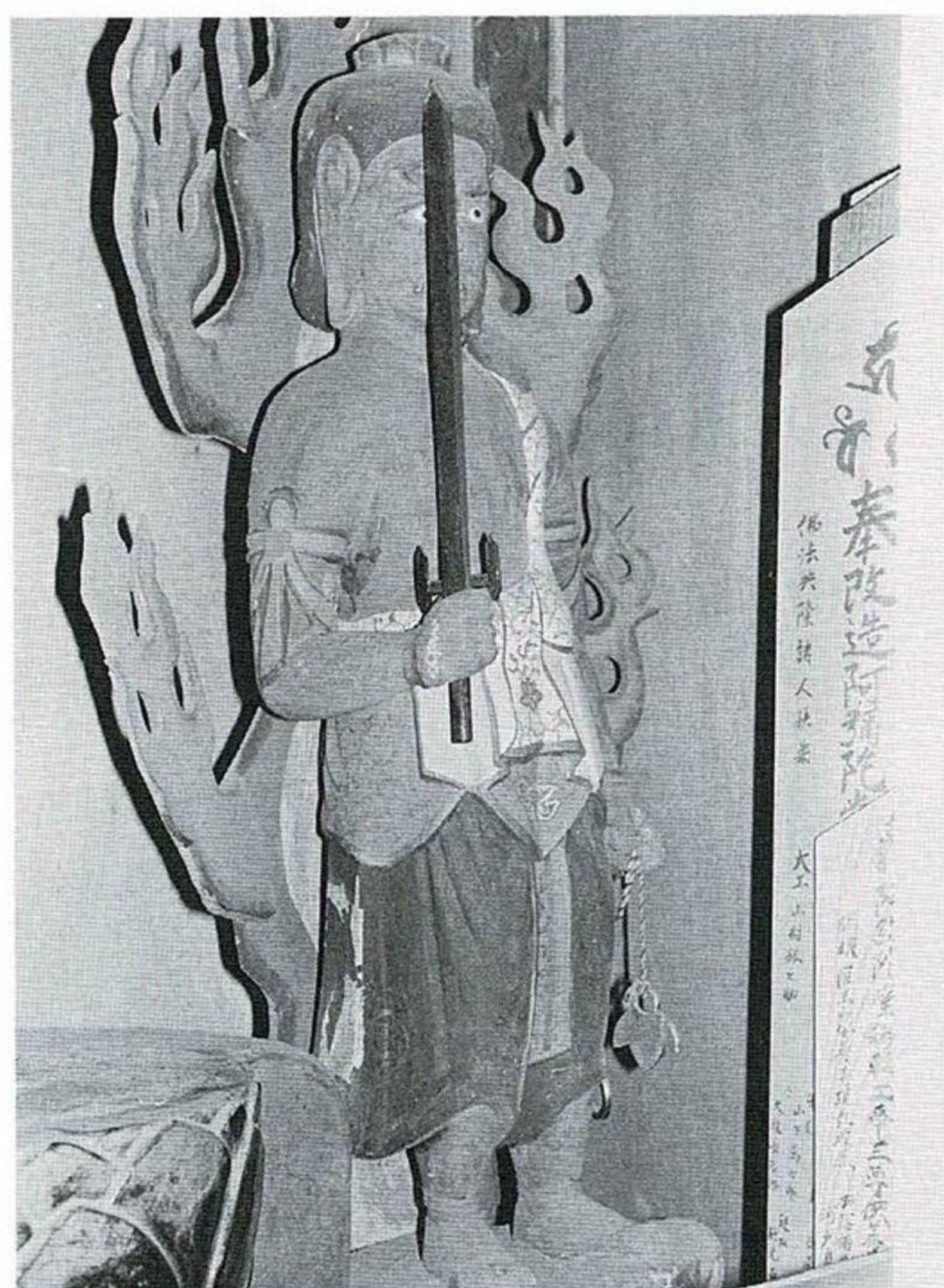


写真 №.2-1

場所 水谷部落の阿弥陀堂

建立時期 江戸時代頃

管理者 水谷部落

### 物件にまつわる話

彩色

阿弥陀像の向かって右側に置かれる。右手に剣、左手に羂索(けんさく)を持つ。次(写真2-2)の毘沙門天と同じ仏師の作である。おそらく、在地の仏師と思われる。

写真 №.2-2

場所 水谷部落の阿弥陀堂

建立時期 江戸時代頃

管理者 水谷部落

### 物件にまつわる話

彩色

阿弥陀像の向かって左側に置かれる。表面は絵具で彩る彩色像である。右手に戟(げき)を持ち、左手は宝珠を持つと思われるが欠失する。道谷の毘沙門天と同様に素朴な作風を示す。

## びしゃもんてん 木造毘沙門天立像



## 木造聖観音立像(2体)、木造十一面観音立像



写真 No.2-3

場所 水谷部落の阿弥陀堂

建立時期 江戸時代頃

管理者 水谷部落

### 物件にまつわる話

しっぽく  
漆箔

堂の向かって左の檀だんにある。台座に立つ2像は聖観音、もたせかけられているのは、十一面観音である。いずれも作風、台座の形からみて、江戸時代の作である。

## によいりん 如意輪観音

写真 No.2-4

場所 水谷部落の阿弥陀堂

造立時期 明治時代

管理者 水谷部落

### 物件にまつわる話

腕が6本ある(六臂ひ)如意輪観音の浮き彫り。基台に「第十八番」とあるのは西国観音札所第18番、京都六角堂の如意輪観音を表わしたものである。眉、目などに彩色がある。



## 地蔵菩薩坐像

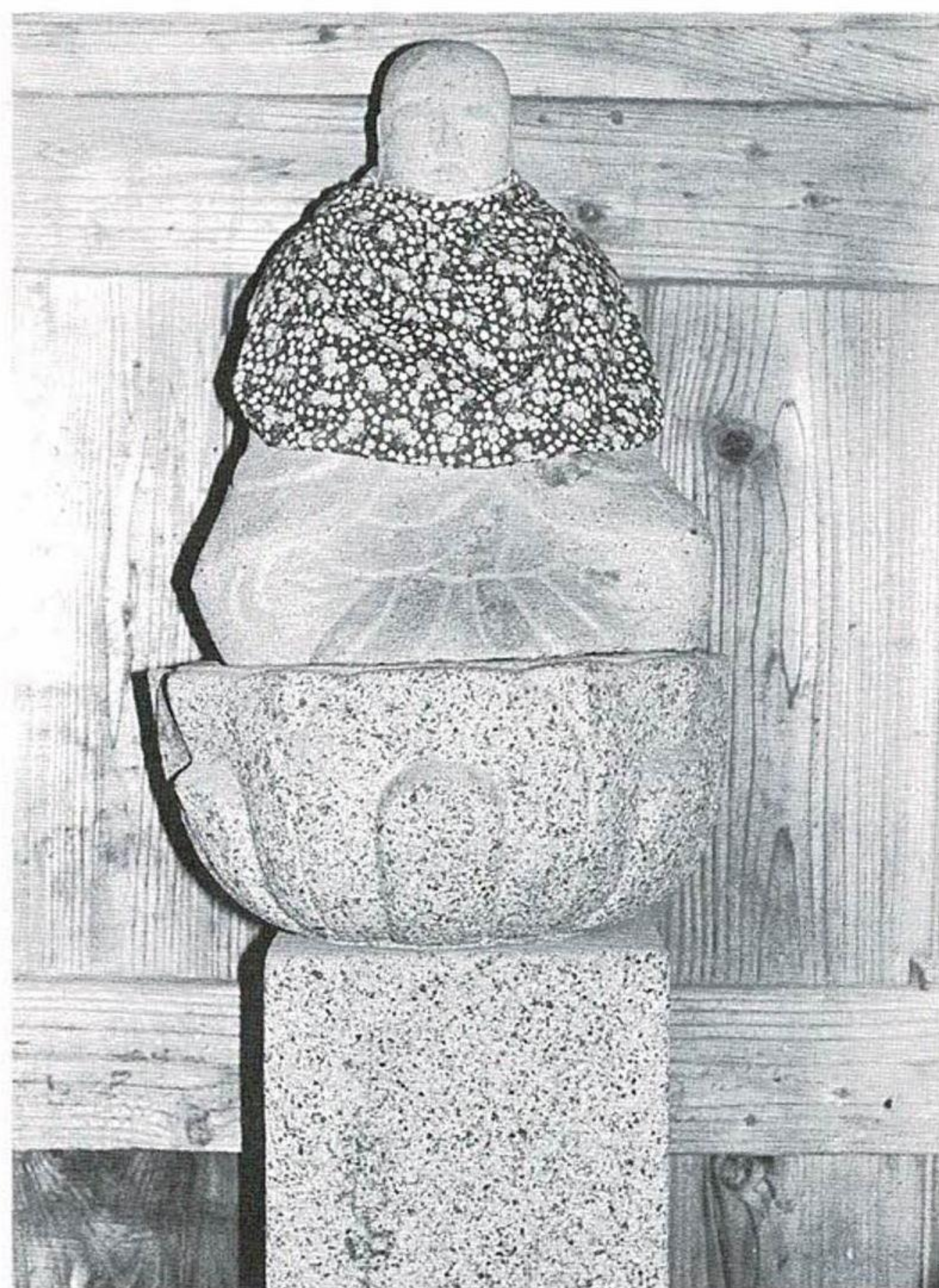


写真 №.2—5

場 所 水谷部落の阿弥陀堂

造立時期 明治時代

管 理 者 水谷部落

### 物件にまつわる話

丸彫り。堂の向かって右側の壇にある。造立年代は新しい。

## イボ石

写真 №.3

場 所 水谷養漁場前・県道（右）

造立時期 不明

管 理 者 大段莞爾

### 物件にまつわる話

昔から水谷部落の人々は、誰かれともなしに、「イボが出来るとイボ石のつぼの水をつけるとなおる」と言って、へこんだ石にたまった水をいただきによくお参りしていたそうだ。石をおがんだ後、石が見えないようになるまでは絶対に後を向かずに家まで帰らないと、いけない。もし後をふり向くとご利益は消えてしまうそうである。

イボ石が新聞に掲載されたこともあり、他部落の人もお参りされる。



## 五輪塔



写真 №.4

場所 奥水谷部落の山村雄彦氏宅の横

造立時期 室町～江戸時代

管理者 山村雄彦

### 物件にまつわる話

室町～江戸時代の五輪塔残欠を寄せ集めている。

## 光明真言百万遍供養塔

写真 №.4-1

場所 奥水谷部落の谷尻博美氏宅横

造立時期 嘉永3年2月(1850年)

管理者 不明

### 物件にまつわる話

光明真言を百万遍唱えた証の石塔であり、昔、病気で亡くなられた人を供養するため、この塔が建てられたといわれる。



## 五輪塔残欠



写真 №.4-2

場 所 谷尻博美氏宅横

造立時期 江戸時代頃

管 理 者 谷尻博美

### 物件にまつわる話

五輪塔の水輪3個を積み上げている。  
丁寧に保存され又、お祀りもされて  
いる事が伺える。

## 五 輪 塔

写真 №.4-3

場 所 奥水谷部落の谷尻昭雄氏宅横  
池の上

造立時期 室町末期～桃山時代

管 理 者 谷尻昭雄

### 物件にまつわる話

昔、ある人が病気になり全快を祈って建てられたと伝えられる。

中央部の地輪、水輪、火輪がセットのもので最下段と頂部は別石の寄せ集めである。



## 木造千手観音立像



写真 No.5

場所 奥水谷部落の山村八郎氏宅横

建立時期 大正9年

管理者 水谷部落

物件にまつわる話

西国33番霊場第19番札所、観音堂の中（中央）

## 石くい地蔵（右側）

写真 No.5-1

場所 奥水谷部落の  
山村八郎氏宅  
横

造立時期 大正8年11月

管理者 水谷部落

物件にまつわる話

西国33番霊場第19番  
札所観音堂の中。

この地蔵さんは、石を食べられるという事で村の人々は、小石を供えたり投げたりして願い事をかなえていたと伝えられている。顔がくずれているのもそのためだと言われている。



## 石 仏

写真 No.5-2

場 所 奥水谷部落の山村八郎氏宅横

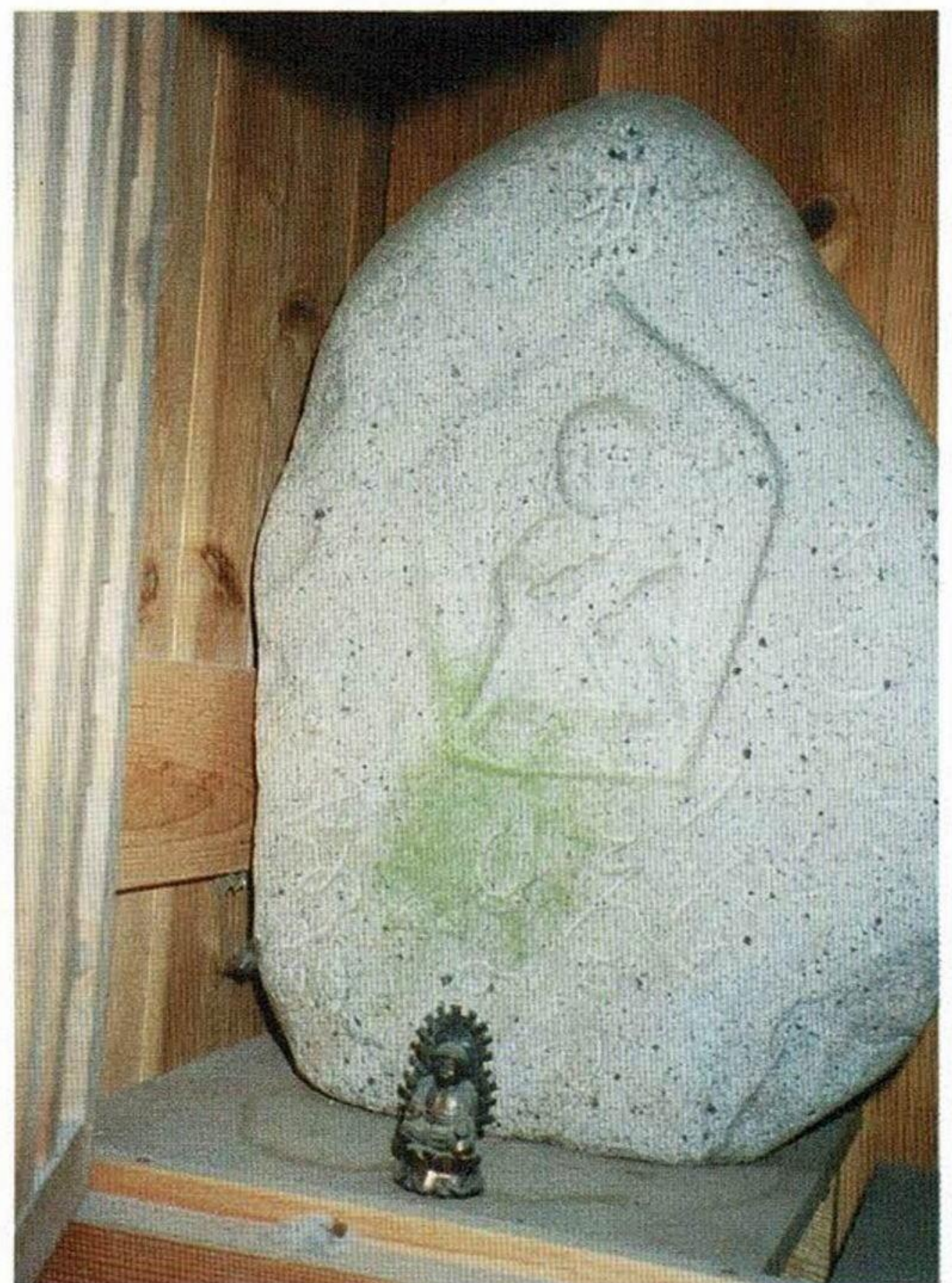
造立時期 江戸時代

管 理 者 水谷部落

### 物件にまつわる話

西国33番霊場第19番札所観音堂中  
(左側)

昔、巡礼僧が、このあたりに来て死んだがその人がお金を多く持っていたので村人は、この巡礼僧を祀ることにしたそうである。

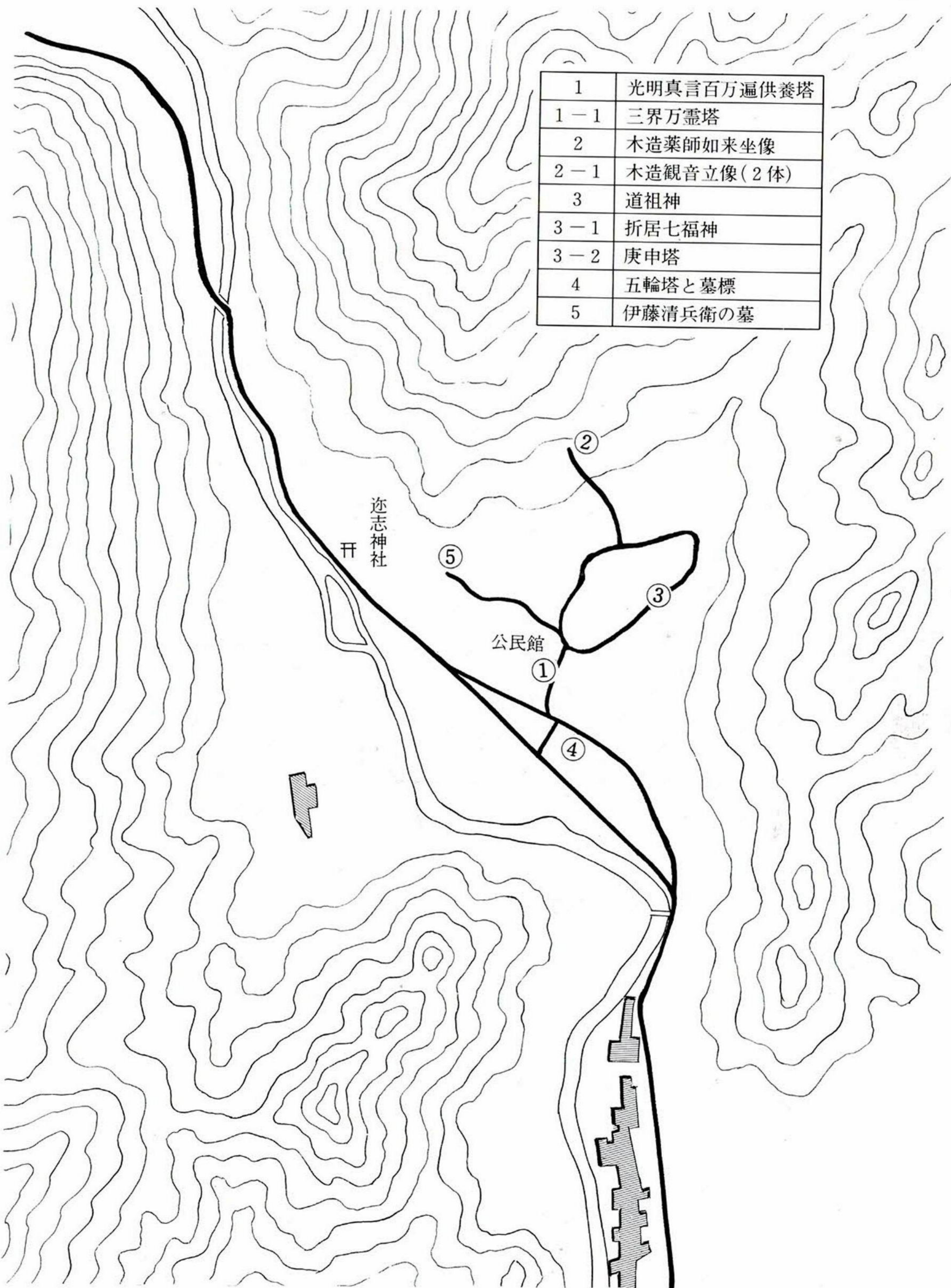


皆 木

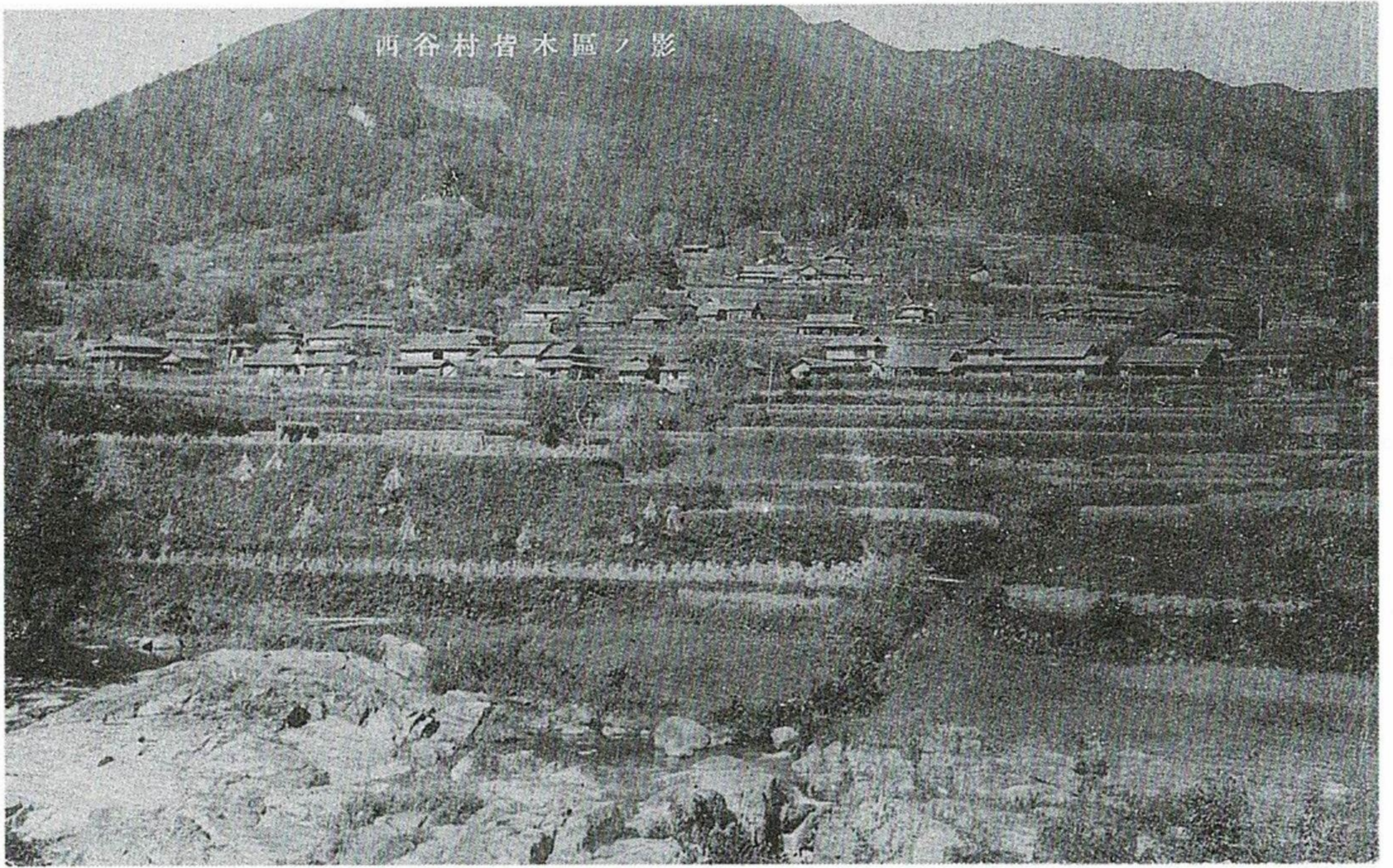


# 皆木地区 所在位置図

1	光明真言百万遍供養塔
1-1	三界万霊塔
2	木造薬師如来坐像
2-1	木造観音立像(2体)
3	道祖神
3-1	折居七福神
3-2	庚申塔
4	五輪塔と墓標
5	伊藤清兵衛の墓



# 皆 木



## 光明真言百万遍供養塔



写真 No.1

場所 皆木部落

阿山店の西上

造立時期 明治10年10月吉日

所有者 皆木部落

### 物件にまつわる話

光明真言（おんあぼきやべいろしやなう  
まかぼたらまにはんどまじんばらはらばりた  
やうん）を百万遍唱えた証の石造。光  
明真言を唱えると、一切の罪業を除く  
という。どこの部落にもある。なか  
には、一千万遍の供養塔もあるといわ  
れる。一千万遍唱えたとすれば、昼夜  
唱えて7年かかるといわれる。

## 三界万霊塔

写真 No.1 - 1

場所 皆木部落

阿山店の西上

造立時期 しょうとく 正徳5年（1715年）

所有者 皆木部落

### 物件にまつわる話

三界とは、一切衆生の三種の世界。  
すなわち欲界、色界、無色界のこと。  
したがってよろずのもの、万物の霊の  
供養の意味。

上部の月輪内に梵字で真言を刻み、  
下部中央に「為三界万<sup>が</sup>霊<sup>ほんじ</sup>」とある。霊  
は霊の異体文字。



## 木造薬師如来坐像



写真 No.2

場所 皆木部落の観音堂

建立時期 江戸時代

所有者 皆木部落

薬師如来 像高70.6cm 膝張58.0cm

膝奥42.4cm

### 物件にまつわる話

昔、皆木字大谷山頂にあったものを現在地に移したといわれている。享保4年(1720年)にお堂を再建して、明治40年に村内にあった薬師如来(岡田かずえ宅西)千手観音(迹志神社東)を合祀、大正11年に石仏を合祀する。

現在、祭日(9月1日)には甘酒を参拝者に供しているが、大谷山頂に観音堂があった頃からの習わしといわれている。

## 木造観音立像(2体)



写真 No.2-1

場所 皆木部落  
の観音堂

建立時期 江戸時代

管理者 皆木部落

### 物件にまつわる話

3体(写真No.2を含む)とも漆箔は昭和57年のもの、漆箔のため構造は不明。

観音像(左) 像高59.0cm

三面六臂で、本来観音像であるかは不明。

観音像(右) 像高31.0cm 如来形を示す。

## 道 祖 神



写真 №.3

場 所 皆木部落

平山優氏宅東

造立時期 嘉永元年（1848年）

所 有 者 皆木部落

### 物件にまつわる話

道祖神は塞さいの神ともいう。

道行く人を災難から守る神さまであり、昔、生野代官所へ年貢を収めに行った道沿いである。

よく、ワラジが側の木にぶらさげてあった。

## 折居七福神

写真 №.3 - 1

場 所 皆木部落

平山優氏宅東

造立時期 昭和60年12月吉日

所 有 者 皆木部落

### 物件にまつわる話

現在地より、南方約100米の田の中に3米位の小山があり、そこに一石五輪が3基あったのを移転し祀ったものである。

一昔前、皆木村に大飢饉が訪れた際、折居九平と言う人が、時の代官へ直訴した。そのため、その家族馬方など7人の者が処刑され悲惨な最後を遂げたと言い伝えが残っており、村人にとって尊き人等の霊を慰めんがため建立したと記されている。



## 庚申塔



写真 No.3-2

場所 皆木部落  
平山優氏宅横

造立時期 江戸時代末期

所有者 皆木部落

### 物件にまつわる話

干支(えと)の一つ。かのえさる。  
庚申の夜に寝ると、人の腹の中にいる三匹の虫が抜け出して昇天し、天帝にその人の悪事を告げるといので、寝ないで夜を明かしていた。

当部落では、百姓の神様、道祖神と同じともいわれ祀られていた。

## 五輪塔と墓標

写真 No.4

場所 皆木部落  
前田広美氏所有の畑にある。

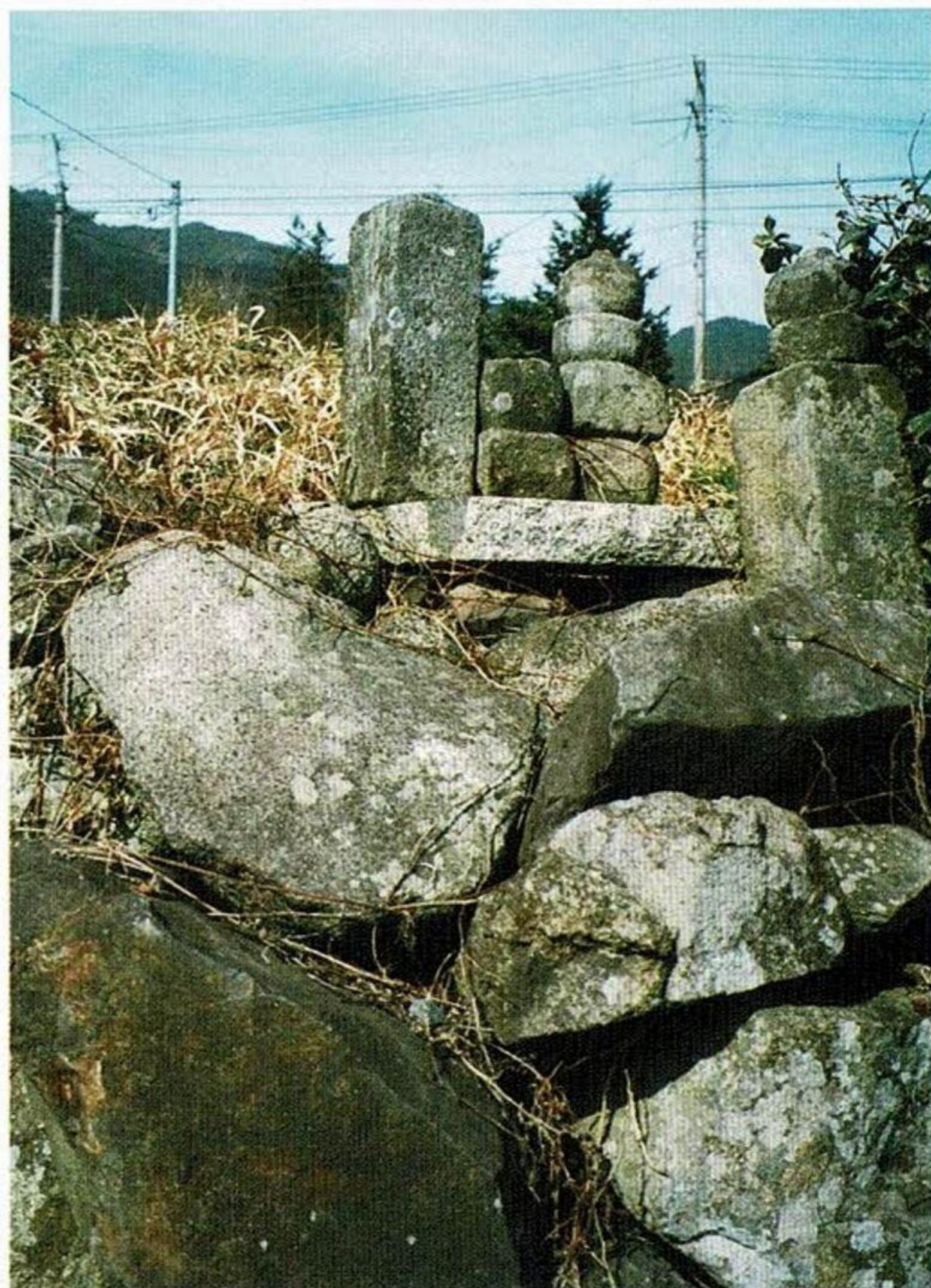
造立時期 江戸時代

所有者 皆木部落

### 物件にまつわる話

昔二人の人が、刀か何か出るだろう(横穴式石室古墳?)と考えて掘ったが馬具の一部(足やすめ)が出たのみで、刀等は出土しなかったと言われている。

その晩、塚を掘った一人が激しい腹痛に見舞われる。村人は塚を掘った「たたり」だと噂したという。



## 伊藤清兵衛の墓



写真 No.5

場 所 皆木部落墓地

(ほ場整備によって移転。それまでは国道29号線と町道皆木線の交叉点にあった。)

造立時期 安政3辰12月2日(1856年)

所有者 岡田家

### 物件にまつわる話

墓碑からみれば、江戸時代に造立したものと思われる。

勉強を教えてもらった先生の徳を偲んで生徒が先生の死後造立したようである。